

サムエル前書

第一章

一 エフライムの山地のラマタイムズビムにエルカナと名くる人ありエフライム人にしてエロハムの
 二 子なりエロハムはエリウの子エリウはトフの子トフはツフの子なり エルカナに二人の妻ありて
 三 ひとりの名をハンナといひひとりの名をペニンナといふペニンナには子ありたれどもハンナには子あらざりき
 四 是人毎歳に其邑をいで上りてシロにおいて萬軍のエホバを拜み之に祭物をさゝぐ其處にエリの二人の子ホフニ
 五 とビネハスをりてエホバに祭司たり エルカナ祭物をさゝぐる時其妻ペニンナと其すべての息子女子にわかち
 六 あたへしが ハンナには其倍をあたふ是はハンナを愛するが故なりされどエホバ其孕みをとどめたまふ 其
 七 敵もまた痛くこれをなやましてエホバが其はらみをとどめしを怒らせんとす 歳々ハンナ、エホバの家におほ
 八 るごとにエルカナかくなせしかばペニンナかくのごとく之をなやます是故にハンナないてもくはざりき 其
 九 夫エルカナ之にいひけるはハンナよ何故になくや何故にもくはざるや何故に心かなしむや我は汝のためには
 十 十人の子よりもまさるにあらずや
 一一 かくてシロにて食飲せしちハンナたちあがり時に祭司エリ、エホバの宮の柱の傍にある壇に坐す
 一二 ハンナ心にくるしみエホバにいのりて甚く哭き 誓をなしていひけるは萬軍のエホバよ若し誠に婢の惱を
 一三 かへりみ我を憶ひ婢を忘れずして婢に男子をあたへたまはば我これを一生のあひだエホバにさゝげ剃髪刀を其首
 一四 にあつまじ

イ代上六・二七、三四 一六・二六 路二・ 一六・二一
 口得一・二二 四一 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二
 八出二三・一四 申 二卷一八・一 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 ト創三〇・二 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 又母前三・三 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 ル伯七・一、一〇、一 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 ナ母後一七・八 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 ヲ創二八・二〇 民 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 民 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 出四 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 ヲ創八・一、三〇・二 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 夕民六・五、一三、一五 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、
 一 一六・二一、二二、二七、二八、 申二・二五、二六、二七、 一六・二一、二二、二七、二八、

レ詩六二八、一四二 ツ士一八・大 可五・ネ詩二〇・四・五
三四 路七・五〇、ナ創三三・一五 得二
ソ申一三・一三 八・四八 一・三三
ラ傳九・七 ム創四・一
ウ創三〇・二二 井母前一・三
ノ路二二・二二 才出二一・六
ク母前一・二一、二八、ヤ民三〇・七
二・二一、一八、三・マ母後七・二五
ケ申一・二五、六、一 一
フ卷一八・一
エ創四二・二五
二・二一、四、六 王下

二三 ハンナ、エホバのまへに長くいのりければエリ其口に目をとめたり 二三 ハンナ心の中にもいへば只唇

二四 うごくのみにて聲きこえず是故にエリこれを酔たる者と思ひ 二四 これにいひけるは何時まで酔ひをるか爾の酒を

二五 されよ 二五 ハンナこたへていひけるは主よ然るにあらす我は氣のわづらふ婦人にして葡萄酒をも濃き酒をものま

二六 ず惟わが心をエホバのまへに明せるなり 二六 婢を邪なる女となすなかれ我はわが憂と悲みの多きよりして今まで

二七 かたれり 二七 エリ答へていひけるは安んじて去れ願くはイスラエルの神汝の求むる願ひを許したまはんことを

二八 ハンナいひけるはねがはくは仕女の汝のまへに恩をえんことをと斯てこの婦さりて食ひ其顔ふたゝび哀しげ

ならざりき 二八

二九 是に於て彼等朝はやくおきてエホバの前に拜をしかへりてラマの家にいたる而してエルカナ其つまハンナ

三〇 とまじはるエホバ之をかへりみたまふ 三〇 ハンナ孕みてのち月みちて男子をうみ我これをエホバに求めし故なり

とて其名をサムエル(エホバに聽る)となづく 三〇

三一 爰に其人エルカナ及び其家族みな上りて年々の祭物及び其誓ひし物をさゝぐ 三三 然どもハンナは上らず

其夫にいひけるは我はこの子の乳ばなれするに及びてのち之をたづさへゆきエホバのまへにあらはれしめ恒にか

しここに居らしめん 三三 其夫エルカナ之にいひけるは汝の善と思ふところを爲し此子を乳ばなすまでとどまるべし

只エホバの其言を確實ならしめ賜んことをねがふと斯くこの婦止まりて其子に乳をのませ其ちばなれするをまち

しが 二四 乳ばなせしとき牛三頭粉一斗酒一囊を取り其子をたづさへてシロにあるエホバの家にとりて其子なほ

幼稚し 二五 是に於て牛をころしその子をエリの許に携へゆきぬ 二六 ハンナいひけるは主よ汝のたましひは活く

われはかつてこゝにてなんぢの傍にたちエホバにいのりし婦なり
われ此子のためにいのりしにエホバわが

求めしものをあたへたまへり
此故にわれまたこれをエホバにさへげん其一生のあひだ之をエホバにさへげ

斯てかしこにてエホバををがめり
ハナナ禱りて言けるは我心はエホバによりて喜び我角はエホバによりて高し我口はわが敵の上に

第二章

はりひらく是は我汝の救拯によりて樂むが故なり
エホバのごとく聖き者はあらず其は汝の外に

有る者なければなり又われらの神のごとき誓はあることなし
汝等重ねて甚く誇りて語るなかれ汝等の口より

慢言を出すなかれエホバは全知の神にして行爲を裁度りたまふなり
勇者の弓は折れ倒るゝ者は勢力を帯ぶ

飽足る者は食のために身を傭はせ飢たる者は憩へり石女は七人を生み多くの子を有る者は衰ふるにいたる
エホバは貧からしめ又富しめたまひ卑くしました高

くしたまふ
荏弱者を塵の中より擧げ窮乏者を埃の中より升せて王公の中に坐せしめ榮光の位をつがしめ給ふ

地の柱はエホバの所屬なりエホバ其上に世界を置きたまへり
エホバ其聖徒の足を守りたまはん惡き者は黑暗

にありて黙すべし其は人力をもて勝つべからざればなり
エホバと争ふ者は破碎かれんエホバ天より雷を彼等

の上にくだしエホバは地の極を審き其王に力を與へ其膏そゝぎし者の角を高くし給はん
エルカナ、ラマに往て其家にいたりしが稚子は祭司エリのまへにありてエホバにつかふ

さてエリの子は邪なる者にしてエホバをしらざりき
祭司の民に於る習慣は斯のごとし人祭物をさへぐ

イ太七・七
口母前一・一一、一二
ハ創二四・二六、五二
二律四・六
ホ路一・四六
ヘ詩九二・一〇、一一
二九
二詩九・一四、一三
五、二〇・五、三五
九
チ出一五・一一 申三 又詩九四・四 馬三
二四、三二、四詩 一三 猶一五
八六・八、八九・六、ル詩三七・一五、一七、九
七六・三
ヨ申三二・三九 伯五
ツ伯三六・七
一・三
ノ母前二・一八、三、一
オ申一三・一三
ク士二・一〇 耶二三
二六 羅一・二八

イ太七・七
口母前一・一一、一二
ハ創二四・二六、五二
二律四・六
ホ路一・四六
ヘ詩九二・一〇、一一
二九
二詩九・一四、一三
五、二〇・五、三五
九
チ出一五・一一 申三 又詩九四・四 馬三
二四、三二、四詩 一三 猶一五
八六・八、八九・六、ル詩三七・一五、一七、九
七六・三
ヨ申三二・三九 伯五
ツ伯三六・七
一・三
ノ母前二・一八、三、一
オ申一三・一三
ク士二・一〇 耶二三
二六 羅一・二八

ヤ利三・三、四、五、一 ケ馬二・八
六
マ創六・二一
フ母前二・二一
コ出二八・四 母後六
エ母前一・三
テ創一四・一九
ア母前一・二八
サ創二一・一
キ母前二・二六 士
一三・二四 母前三
二九 路一・八〇、
二・四〇
ユ出三八・八
メ民一五・三〇
ミ書一一・二〇 燬
一五・一〇
シ母前二・二一

二四 爾時肉を烹るあひだに祭司の僕三の齒ある肉叉を手にとりて來り 之を釜あるひは鍋あるひは鼎又は炮烙に

突きいれ肉叉の引きあぐるところの肉は祭司みなこれを己にとる是くシロに於て凡てそこに来るイスラエル人に

一五 なせり 脂をやく前にも亦祭司のしもべ來り祭物をさゝぐる人にいふ祭司のために焼くべき肉をあたへよ祭司

一六 は汝より烹たる肉を受けず生腥の肉をこのむと もし其人これにむかひ直ちに脂をやくべければ後心のこのむ

一七 まゝに取れといはゞ僕之にいふ否今あたへよ然らずば我強て取んと 故に其壯者の罪エホバのまへに甚だ

大なりそは人々エホバに祭物をさゝぐることをいとひたればなり

一八 サムエルなほ幼して布のエポデを着てエホバのまへにつかふ また其母これがために小き明衣をつくり

二〇 歳毎にその夫とともに年の祭物をさゝげにのぼる時これをもちきたる エリ、エルカナとその妻を祝していひ

けるは汝がエホバにさゝげたる者のためにエホバ此婦よりして子を汝にあたへたまはんことをねがふと斯てかれ

二 其郷にかへる しかしてエホバ、ハンナをかへりみたまひければハンナ孕みて三人の男子と二人の女子を

うめり童子サムエルはエホバのまへにありて生育てり

二三 こゝにエリ甚だ老て其子等がイスラエルの人々になせし諸の事を聞きまた其集會の幕屋の門にいづる婦人

二三 たちと寢たるを聞て これにいひけるは何ぞ斯る事をなすや我このすべての民より汝らのあしき行をきく

二四 わが子よ然すべからず我きくところの風聞よからず爾らエホバの民をしてあやまたしむ 人もし人にむか

ひて罪をかかさば神之をさばかんされど人もしエホバに向ひて罪をかかさば誰かこれがためにとりなしをなさん

二六 やとしかれども其子父のことばを聽ざりきそはエホバかれらを殺さんと思ひたまへばなり 童子サムエル生長

ゆきてエホバと人とに愛せらる

三六 茲に神の人エリの許に來りこれにいひけるはエホバ斯くいひたまふ爾の父祖の家エジプトにおいてバロの

三八 家にありしとき我明かに之にあらはれしにあらずや 我これをイスラエルの諸の支派のうちより選みてわが

祭司となしわが壇の上に祭物をさしげ香をたかしめ我前にエホデを衣しめまたイスラエルの人の火祭を悉く汝の

父の家にあたへたり なんぞわが命ぜし犠牲と禮物を汝の家にてふみつくるや何ぞ我よりもなんぢの子をたふ

とみわが民イスラエルの諸の祭物の最も嘉きところをもて己を肥すや 是ゆゑにイスラエルの神エホバいひ

たまはく我誠に曾ていへり汝の家およびなんぢの父祖の家永くわがまへにあゆまんと然ども今エホバいひたまふ

三二 決めてしからず我をたふとむ者は我もこれをたふとむ我を賤しむる者はかるんぜらるべし 視よ時いたらん我

汝の腕と汝の父祖の家の腕を絶ち汝の家に老たるもの无らしめん 我大にイスラエルを善すべけれど汝の家内

三三 には災見えん汝の家にはこのち永く老るものなかるべし またわが壇より絶ざる汝の族の者は汝の目を

三三 そこなひ汝の心をいたましめん又汝の家に生まれいづるものは壯年にして死なん 汝のふたりの子ホフニとビ

三五 ネハスの遇ところの事を其徴とせよ即ち二人ともに同じ日に死なん 我はわがために忠信なる祭司をおこさん

其人わが心とわが意にしたがひておこなはんわれその家をかたうせんかれわが膏そよぎし者のまへに恒にあゆ

三六 むべし しかして汝の家にのこれる者は皆きたりてこれに屈み一厘の金と一片のパンを乞ひ且いはんねがはく

は我を祭司の職の一に任じて些少のパンにても食ふことをえせしめよと

イ 鐵三・四 路二・五二 二出二八・一、四 民 三四、三五、一〇・ト申三二・二五 五 魯馬二・九 一五
徒二・四七 羅一四 一六・五、一八・一、 一四、一五 民五・ 十出二九・九 一四・一〇 母前四 三 母前四・一
一八 七 九、一〇、一八・八 一四・一〇 母前四 三 母前四・一
口王上一三・一 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、
ハ出四・一四、二七 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、 一六、七、七、八、

ナ母前二・一一
一〇母前二・二二
四・一五
ラ創二七・一一、四八・ム出二七・二二
二四・三三 代下 一三
ウ母前 一九
井徒一九・二
ノ王下二二・一二
耶 一九・三
オ母前二・三〇一三六
ヤ結七・三・一八・三〇
ケ母前二・二二・二五
マ母前二・二二・一七
フ民一五・三〇・三一
一〇九・三
三一
二二
二二
三二・一四

第三章

一 童子サムエル、エリのまへにありてエホバにつかふ當時はエホバの言まれにして黙示あること
二 恒ならずき 儲エリ目漸くもりて見ることえず此時其室に寝たり 神の燈なほきえず
三 サムエル神の櫃あるエホバの宮に寝ね 時にエホバ、サムエルをよびたまふ彼我此にありといひて エリの
四 許に趨ゆきいひけるは汝われをよぶ我こゝにありエリいひけるは我よばず反りて臥よと乃ちゆきていぬ エホ
五 バまたかさねてサムエルよとよびたまへばサムエルおきてエリのもとにいたりいひけるは汝われをよぶ我こゝに
六 ありエリこたへけるは我よばずわが子よ反りていねよ サムエルいまだエホバをしらずまたエホバのことば
七 いまだかれにあらはれず エホバ三たびめに又サムエルをよびたまへばサムエルおきてエリの許にいたりいひ
八 けるは汝われをよぶ我こゝにありとエリ乃ちエホバの童子をよびたまひしをさとる 故にエリ、サムエルに
九 いひけるはゆきて寢よ彼若し汝をよばば僕聽くエホバ語りたまへといへとサムエルゆきて其室にいねしに
一〇 エホバ來りて立ちまへの如くサムエル、サムエルとよびたまへばサムエル僕きく語りたまへといふ 二 エ
一 一 ホバ、サムエルにいひ賜けるは視よ我イスラエルのうちに一の事をなさんこれをきくものは皆其耳ふたつながら
二 二 鳴ん 其日にはわれ嘗てエリの家について言しことを始より終までことごとくエリになすべし 三 われかつて
三 三 エリに其悪事のために永くその家をさばかんとしめせりそは其子の詛ふべきことをなすをしりて之をとどめざれ
四 四 ばなり 是故に我エリのいへに誓ひてエリの家が悪は犠牲あるひは禮物をもて永くあがなふ能はずといへり
五 五 サムエル朝までいねてエホバの家の戸を開きしが其異象をエリにしめすことをおそる 六 エリ、サムエル
六 六 をよびていひけるはわが子サムエルよ答へけるはわれこゝにあり 七 エリいひけるは何事を汝につげたまひしや
七 七

請ふ我にかくすなかれ汝もし其汝に告げたまひしところを一にてもかくすときは神汝にかくなし又かさねてかく
 なしたまへ 一八 サムエル其事をことごとくしめして彼に隠すことなかりきエリいひけるは是はエホバなり其よし
 と見たまふことをなしたまへと

一九 サムエルそだちぬエホバこれとともにいましてそのことばをして一も地におちざらしめたまふ 二〇
 二一 リベエルシバにいたるまでイスラエルの人みなサムエルがエホバの預言者とさだまれるをしれり 二二 エホバふた
 たびシロにてあらはれたまふエホバ、シロにおいてエホバの言によりてサムエルにおのれをしめしたまふなり
 サムエルの言あまねくイスラエル人におよぶ

第四章

一 イスラエル人ペリシテ人にいであひて戦はんとしエベネゼルの邊に陣をとりペリシテ人はアベク
 に陣をとる 二 ペリシテ人イスラエル人にむかひて陣列をなせり戦ふにおよびてイスラエル人ペリ

シテ人のまへにやぶるペリシテ人戰場において其軍四千人ばかりを殺せり 三 民陣營にいたるにイスラエルの

長老曰けるはエホバ何故に今日我等をペリシテ人のまへにやぶりたまひしやエホバの契約の櫃をシロより此に

たづさへ來らん其櫃われらのうちに來らば我らを敵の手よりすくひいだすことあらんと 四 かくて民人をシロに

つかはしてケルビムの上に坐したまふ萬軍のエホバの契約の櫃を其處よりたづさへきたらしむ時にエリの二人の

子ホフニとピネハス神の契約のはことともに彼處にありき

五 エホバの契約の櫃陣營にいたりしときイスラエル人皆大によばはりさけびければ地なりひどけり 六 ペリ

シテ人嗚呼の聲を聞いていひけるはヘブル人の陣營に起れる此大なるさけびの聲は何ぞやと遂にエホバの櫃の其陣

イ得二・二七 三九・八 二二三 民七・八九 詩八〇
 口伯一・二二、二・一 八母前二・二二 本母前九・六 子母前五・一七、二二 又母後六・二
 〇 三九・九 賽 二創三九・二、二二、 へ士二〇・一 二、九、九一

ル 前二六・一三 七・申二八・二五 七・八・六一 尼九・一伯二・二二 母後一・四
 テ 士一三・一 詩七八・九・六二 ヨ 母前二・三四 詩 七・七・六 母後一三 ソ 母前一・九 ナ 創三五・一七
 ワ 母前四・二 利二六 カ 母前二・三二 詩 七八・六四 一九・一五・三二 ツ 母前三・二

七 營にいたれるを知る 七 ペリシテ人おそれていひけるは神陣營にいたる又いひけるは嗚呼われら禍なるかな今に

八 いたるまで斯ることなかりき 八 あゝ我等禍なるかな誰かわれらを是らの強き神の手よりすくひいださんや

九 此等の神は昔し諸の災を以てエジプト人を曠野に撃し者なり 九 ペリシテ人よ強くなり毫傑のごとく爲せへづ

一〇 人がかつて汝らに事へしごとく汝らこれに事ふるなかれ豪傑のごとく爲して戦へよ 一〇 かくてペリシテ人戦ひ

しかばイスラエル人やぶれて各々其天幕に逃かへる戦死はなはだ多くイスラエルの歩兵の仆れし者三萬人なりき

二 又神の櫃は奪はれエリの二人の子ホフニとビネハス殺さる

三 是日ベニヤミンの一人軍中より走來り其衣を裂き土をかむりてシロにいたる 三 其いたれる時エリ道の

傍に壇に坐して觀望居たり其心に神の櫃のことを思ひ煩らひたればなり其人いたり邑にて人々に告ければ邑

二四 こぞりてさげびたり 二四 エリ此呼號の聲をきよていひけるは是喧嘩の聲は何なるやと其人いそぎきたりてエリに

二五 つぐ 二五 時にエリ九十八歳にして其目かたまりて見ることあたはず 二六 其人エリにいひけるは我は軍中より來れ

二七 るもの我今日軍中より逃れたりエリいひけるは吾子よ事いかん 二七 使人答へていひけるはイスラエル人ペリシテ

二八 人の前に逃げ且民の中に大なる戦死ありまた汝の二人の子ホフニとビネハスは殺され神の櫃は奪はれたり 二八 神

の櫃のことを演しときエリ其壇より仰けに門の傍におち頸をれて死ねり是はかれ老て身重かりければなり其イス

ラエルを鞠しは四十年なりき

二九 エリの媳ビネハスの妻孕みて子産ん時ちかゝりしが神の櫃の奪はれしと舅と夫の死にしとの傳言を聞し

三〇 かば其痛みおこりきたり身をかどめて子を産り 三〇 其死なんとする時傍にたてる婦人これにいひけるは懼るゝ

二 なかれ汝男子を生りと然ども答へず又かへりみず 只榮光イスラエルをさりぬといひて其子をイカボデ(榮)
 三 なし」と名く是は神の櫃奪はれしによりまた舅と夫の故に因るなり 三三 またいひけるは榮光イスラエルをさりぬ
 神の櫃うばはれたればなり

第五章

一 ペリシテ人神の櫃をとりて之をエベネゼルよりアシドドにもちきたる 即ちペリシテ人神の櫃
 二 をとりて之をダゴンの家にもちきたりダゴンの傍に置ぬ 三 アシドド人次の日夙く興きエホバの櫃
 のまへにダゴンの俯伏に地にたふれをるをみ乃ちダゴンをととりて再びこれを本の處におく 四 また翌朝夙く興き
 エホバの櫃のまへにダゴン俯伏に地にたふれをるを見るダゴンの頭と其兩手門闕のうへに斷ち切れをり只ダ
 ゴンの體のみのこれり 五 是をもてダゴンの祭司およびダゴンの家にいるもの今日にいたるまでアシドドにある

ダゴンの闕をふまず

六 かくてエホバの手おもくアシドド人にくはよりエホバこれをほろぼし腫物をもてアシドドおよび其四周の
 七 人をくるしめたまふ 八 アシドド人その斯るを見ていひけるはイスラエルの神の櫃を我らのうちにとむべから
 ず其は其手いたくわれらおよび我らの神ダゴンにくはよればなり 九 是故に人をつかはしてペリシテ人の諸君主
 を集めていひけるはイスラエルの神の櫃をいかにすべきや彼らいひけるはイスラエルの神のはこはガテに移さん
 十 と遂にイスラエルの神のはこをうつす 十一 之をうつせるのち神の手其邑にくはよりて滅亡るもの甚だおほし即ち
 老たると幼とをいはす邑の人をうちたまひて腫物人々におこれり 十二 是において神のはこをエクロンにおくり
 たるに神の櫃エクロンにいたりしときエクロン人さけびていひけるは我等とわが民をころさんとてイスラエルの

イ詩二六・八、七八・ハ母前四・二、七・二二 一、二二 四、六 米一・七 九・三 詩三三・四 ル申二八・二七 詩 一・三三、一三・一五 六六
 六一 二一六・二三 二二一・二二 二二二・二二 結六・ 一 母前五・七、一一 出 又 母前六・五 七 申二・一五 母前七 九 母前五・六、九
 口 母前一四・三 ホ 察一九・一、四六・ ト 耶五〇・二二 結六・ 一 母前五・七、一一 出 又 母前六・五 七 申二・一五 母前七 九 母前五・六、九

夕創四一・八 出七・レ出二三・二五 申 ツ母前六・九 ナ母前五・六 九・二四 三九・一〇 ノ出二・三一
一 但二・二、五 一六・一六 一七・一八 一七・一九 察四二 ム母前五・三、四、七 井出七・一三、八・一 オ母後六・三
七 太二・四 ソ利五・一五、一六 一三・三三、三三 二二 馬二・二 約 ウ母前五・六、一、一詩 五、一四・一七 ク民一九・二 ケ母前六・三

二 神のはこを我等にうつすと かくて人を遣してペリシテ人の諸君主をあつめていひけるはイスラエルの神の櫃

をおくりて本のところにかへさん然らば我等とわが民をころすことなからん蓋は邑中に恐ろしき滅亡おこり神の

手甚だおもく其處にくはればなり 死なざる者は腫物にくるしめられ邑の號呼天に達せり

一 エホバの櫃七月のあひだペリシテ人の國にあり 二 ペリシテ人祭司と卜筮師をよびていひけるは

三 第六章 我らエホバの櫃をいかゞせんや如何にして之をもとの所にかへすべきか我らにつげよ 答へける

はイスラエルの神の櫃をかへすときはこれを空しくかへすなかれ必らず彼に過 祭をなすべし然なせば汝ら愈

四 ことをえ且彼の手の汝らをはなれざる故を知にいたらん 人々いひけるは如何なる過 祭を彼になすべきや

答へけるはペリシテ人の諸君主の數にしたがひて五の金の腫物と五の金の鼠をつくれ是は汝ら皆と汝らの諸伯に

五 およべる災は一なるによる 汝らの腫物の像および地をあらず鼠の像をつくりイスラエルの神に榮光を皈す

六 べし庶幾はその手を汝等およびなんぢらの神と汝等の地にくはふることを軽くせん 汝らなんぞエジプト人

とバロの其心を頑にせしごとくおのれの心をかたくなにするや神かれらの中に數度其力をしめせしものち彼ら

七 民をゆかしめ民つひにさりしにあらずや されば今あたらしき車一輛をつくり乳牛のいまだ軛をつけざるもの

八 二頭をとり其牛を車に繋ぎ其轡をはなして家につれゆき エホバの櫃をとりて之を其車に載せ汝らが過 祭と

九 して彼になす金の製作物を櫃にをさめて其傍におき之をおくりて去らしめ しかして見よ若し其境のみち

よりベテシメシにのほらばこの大なる災を我らになせるものは彼なり若ししかせずば我等をうちしは彼の手に

あらずしてそのことの偶然なりしをしるべし

二〇 人々つひに斯なし二つの乳牛をとりて之を車につなぎその櫛を室にとちこめ 二 エホバの櫃および金の鼠

三 与其腫物の像ををさめたる櫛を車に載す 三 牝牛直にあゆみてベテシメシの路をゆき鳴つゝ大路をすゝみゆきて

四 右左にまがらずペリシテ人の君主ベテシメシの境まで其うしろにしたがひゆけり 三 時にベテシメシ人谷に麥を

刈り居たりしが目をあげて其櫃をみ之を見るをよろこべり 一四 車ベテシメシ人ヨシユアの田にいりて其處にとど

五 まる此に大なる石あり人々車の木を劈り其牝牛を燔祭としてエホバにさゝげたり 一五 レビの人エホバの櫃とこれ

とともになる櫛の金の製作物ををさめたる者を取りおろし之を其大石のうへにおくしかしてベテシメシ人此日エホ

六 バに燔祭をそなへ犠牲をさゝげたり 一六 ペリシテ人の五人の君主これを見て同じ日にエクロンにかへれり

七 さてペリシテ人が過祭としてエホバになせし金の腫物はこれなり即ちアシドドのために一ガザのため

八 に一アシケロンのために一ガザのために一エクロンのために一なりき 一八 また金の鼠は城邑と郷里をいはず凡て

五人の君主に屬するペリシテ人の邑の數にしたがひて造れりエホバの櫃をおろせし大石今日にいたるまでベテシ

メシ人ヨシユアの田にあり

一九 ベテシメシの人々エホバの櫃をうかゞひしによりエホバこれをうちたまふ即ち民の中七十人をうてりエホ

二〇 バ民をうちて大にこれをころしたまひしかば民なきさけべり 二〇 ベテシメシ人いひけるは誰かこの聖き神なる

二一 エホバのまへに立つことをえんエホバ我らをはなれて何人のところのほりゆきたまふべきや 二一 かくて使者を

キリアテヤリムの人に遣はしていひけるはペリシテ人エホバの櫃をかへしたれば汝らくだりて之を汝らの所に

携へのぼるべし

イ書一三・三 五、一五、二〇 母 ホ書一八・一四 士
口母前六・四 後六・七 一八・一二 代上
八出一九・二一 民四 二 母後六・九 馬三・二 一三・五、六
へ母前六・二一 詩一 十申三〇・二一 一〇 耳二・二二
三三・六 王上八・四八 賽 一 創三五・二 卷二四
ト 母後六・四 五五・七 何六・一 一四、二三

又士三・二三 下申六・二三、一〇・一〇、ワ士三・一一 三母後一四・一四 一三二 六六 二二・一〇 母後三二
ル代下三〇・一九伯 二〇・一三・四 太 威士二〇・一 王下 女尼九・二、二 但九、レ士二〇・一〇 王上 三三・七・四 一五、五・二〇 士四・
一一・二三、一四 四・一〇 路四・八 二五・二三 三、四、五 耳二、 八・四七 詩一〇六 詩九九・六 耶一五 一五、五・二〇 母前 二四、一五

第七章

一 キリアテヤリムの人來りエホバのはこを携へのぼりこれを山のうへなるアピナダブの家にもちき
たり其子エレアザルを聖てエホバの櫃をまもらしむ 其櫃キリアテヤリムにとどまること久しく
して二十年をへたりイスラエルの全家エホバをしたひて歎けり

三 時にサムエル、イスラエルの全家に告ていひけるは汝らもし一心を以てエホバにかへり異なる神とアシタロ

テを汝らの中より棄て汝らの心をエホバに定め之にのみ事へなばエホバ汝らをペリシテ人の手より救ひいださん

四 こゝにおいてイスラエルの人々バアルとアシタロテをすて、エホバにのみ事ふ

五 サムエルいひけるはイスラエル人をことごとくミズバにあつめよ我汝らのためにエホバにいのらん

六 彼らミズバに集り水を汲て之をエホバのまへに注ぎ其日斷食して彼處にいひけるは我等エホバに罪をかしたり

七 とサムエル、ミズバに於てイスラエルの人を鞠く ぺリシテ人イスラエルの人々のミズバに集れるを聞しかば

八 ぺリシテ人の諸君主イスラエルにせめのぼれりイスラエル人これを聞てぺリシテ人をおそれたり イスラエル

九 の人々サムエルに云けるは我らのために我らの神エホバに祈ることをやむるなかれ然らばエホバ我らをぺリシテ

十 人の手よりすくひいださん サムエル哺乳羊をとり燔祭となしてこれをまつたくエホバにさゝぐまたサムエ

ル、イスラエルのためにエホバにいのりければエホバこれにこたへたまふ サムエル燔祭をさゝげ居し時ぺリ

シテ人イスラエル人と戦はんとて近づきぬ是日エホバ大なる雷をくだしぺリシテ人をうちて之を亂し賜ければべ

二 リシテ人イスラエル人のまへに敗れたり イスラエル人ミズバをいでてぺリシテ人をおひ之をうちてベテカル

の下にいたる

サムエルの石をとりてミツバとセンの間にあひだおきエホバ是まで我らを助けたまへりといひて其名をエベネ

ゼル(助けの石)と呼ぶ 一三 ペリシテ人攻伏られて再びイスラエルの境にいらずサムエルの一生のあひだエホバの

手ペリシテ人をふせげり 一四 ペリシテ人のイスラエルより取たる邑々はエクロンよりガテまでイスラエルにかへ

りぬまた其周囲の地はイスラエル人これをペリシテ人の手よりとりかへせりまたイスラエル人とアモリ人と好を

むすべり 一五 サムエル一生のあひだイスラエルをさばき 一六 歳々ベテルとギルガルおよびミツバをめぐりて其處々にて

イスラエル人をさばき 一七 またラマにかへれり此處に其家あり此にてイスラエルをさばき又此にてエホバに壇を

きづけり

第八章

サムエル年老て其子をイスラエルの士師となす 一 兄の名をヨエルといひ弟の名をアビヤといふベエルシバにありて士師たり 二 其子父の道をあゆまずして利にむかひ賄賂をとりて審判を

曲ぐ

是においてイスラエルの長老みなあつまりてラマにゆきサムエルの許に至りて 三 これにいひけるは視よ

汝は老い汝の子は汝の道をあゆまずさればわれらに王をたてゝわれらを鞫かしめ他の國々のごとくならしめよと

その我らに王をあたへて我らを鞫かしめよといふを聞てサムエルよろこばず而してサムエル、エホバにいのり

しかば 七 エホバ、サムエルにいひたまひけるは民のすべて汝にいふところのことばを聴け其は汝を棄るにあら

ず我を棄て我をして其王とならざらしめんとするなり 八 かれらはわがエジプトより救ひいだせし日より今日に

イ創二八・一八、三一 母前四・一
ホ母前七・六、一二、ト士二一・四
一四、五、一〇
又代上六・二八
ヲ出二八・二一 提前 一五・五
カ母前八・一九、二〇
申一七・二四 何
一三・一〇 徒一三

二二一 一〇・二五 四六・二八 二七・二八 賽一・ウ母前八・五 ノ母前一四・五一
 出二六・八 何二三・二〇、二一 レ母前八・二一 ツ母前一四・五二 一五 米三・四 井母前八・七 何一三 上八・三三、九
 夕母前一〇・一九、 ソ申一七・二六 母前 ネ王上二一・七 結 ラ鐵一・二五、二六、 ム耶四四・一六 一、一一 三九

九 いたるまで我をすて、他の神につかへて種々の所行をなせしごとく汝にもまた然す 然れどもいま其言をきけ

但し深くいさめて其治むべき王の常例をしめすべし

二〇 サムエル王を求むる民にエホバのことばをことごとく告て いひけるは汝等ををさむる王の常例は斯の

三 ごとし汝らの男子をとり己れのために之をたて、車の御者となし騎兵となしまた其車の前驅となさん また

之をおのれの爲に干夫長五十夫長となしまた其地をたがへし其作物を刈らしめまた武器と車器とを造らし

二四 めん また汝らの女子をとりて製香者となし厨婢となし炙麵者となさん 又汝らの田畝と葡萄園と橄欖園

一五 の最も善きところを取て其臣僕にあたへ 汝らの穀物と汝らの葡萄の什分一をとりて其官吏と臣僕にあたへ

一六 また汝らの僕婢および汝らの最も善き牛と汝らの驢馬を取ておのれのために作かしめ 又汝らの羊の

一八 十分一をとり又汝らを其僕となさん 其日において汝等己のために擇みし王のことによりて呼號らんされど

エホバ其日に汝らに聽たまはざるべしと

一九 然るに民サムエルの言にしたがふことをせずしていひけるは否われらに王なかるべからず 我らも他の

二 國々の如くなり我らの王われらを鞠きわれらを率て我らの戦にたゝかはん サムエル民のことばを盡く聞て

三 之をエホバの耳に告ぐ エホバ、サムエルにいひたまひけるはかれらのことばを聞きかれらのために王をたて

よサムエル、イスラエルの人々にいひけるは汝らおのおの其邑にかへるべし

第九章

一 茲にベニヤミンの人にてキシと名くる力の大なるものありキシはアビエルの子アビエルはゼロン
 二 の子ゼロンはベコラテの子ベコラテはアビヤの子アビヤはベニヤミンの子なり キシにサウルと

名くる子あり壯にして美はしイスラエルの子孫の中に彼より美はしき者なく肩より上民のいづれの人よりも高し

三 サウルの父キシの驢馬失ぬキシ其子サウルにいひけるは一人の僕をともなひ起ちてゆき驢馬を尋ねよ 四 サウ

ル、エフライムの山地を通り過ぎシヤリシヤの地を通りすぐれども見あたらすシヤリムの地を通りすぐれども

居らずベニヤミンの地をとほりすぐれども見あたらす

五 かれらツフの地にいたれる時サウル其ともなへる僕にいひけるはいざ還らん恐らくはわが父驢馬の事を措

六 て我等の事を思ひ煩はん 僕これにいひけるは此邑に神の人あり尊き人にして其言ふところは皆必らず成る

七 我らかしこにいたらんかれ我らがゆくべき路をわれらにしめすことあらん サウル僕にいひけるは我らもし

八 ゆかば何を其人におくらんか器のパンは既に罄て神の人におくるべき禮物あらず何かあるや 僕またサウルに

こたへていひけるは視よわが手に銀一シケルの四分の一あり我これを神の人にあたへて我らに路をしめさしめん

九 と 昔しイスラエルにおいては人神とはんとてゆく時はいざ先見者にゆかんといへり其は今の預言者は昔し

一〇 は先見者とよばれたればなり サウル僕にいひけるは善くいへりいざゆかんとて神の人のをる邑におもむけり

一一 かれら邑にいる坂をのぼれる時童女數人の水くみにいづるにあひ之にいひけるは先見者は此にをるや

一二 答ていひけるはをる視よ汝のまへにをる急ぎゆけ今日民崇邱にて祭をなすにより彼けふ邑にきたれり 汝

ら邑にいる時かれが崇邱にのぼりて食に就くまへに直ちにかれにあはん其は彼まづ祭品を祝してしかるのち招か

れたる者食ふべきに因りかれが来るまでは民食はざるなり故に汝らのぼれ今かれにあはんと 一四 かれら邑にのぼ

りて邑のなかにいるとき視よサムエル崇邱にのぼらんとてかれらにむかひて出きたりぬ

イ母前一〇・二三 一三・一 一七 王上一四・三 へ創二五・二三 二六・二八、二九 慶七・二二
ロ王下四・四二 二母前三・一九 王下四・四二、八 卜母後二四・一一 二九代下一六・七、チ創二四・一一 一六・二
ハ申三三・一 王上 ホ士六・一八、一三 八 下二七・二三 代上 一〇 祭三〇・一〇 リ王上三三・二

ル母前二五・一 徒
一三・二二
ヲ母前二〇・一 徒
カ出二・二五、三・七、
九
ヨ母前一六・二二何
一三・二二
レ母前八・五、一九、
一三・二二
四八 詩六八・二七
ナ利七・三二、三三結
一・二二徒一〇・九
ツ母前二五・一七
二四・四
ネ士六・一五
ラ申二二・八 母後
ソ士二〇・四六、四七、
一三・二二

一五 エホバ、サウルのきたる一日まへにサムエルの耳につけていひたまひけるは 一六あくるひ 明日いまごろ我ベニヤミ

二六 ンの地より一箇の人を汝につかはさん汝かれに膏を注ぎてわが民イスラエルの長となせかれわが民をペリシテ人

二七 の手より救ひいださんわが民のさけび我に達せしにより我是をかへりみるなり 一七 サムエル、サウルを見るとき

二八 エホバこれにいひたまひけるは視よわが汝につげしは此人なり是人わが民ををさむべし 一八 サウル門の中にてサ

二九 ムエルにちかづきいひけるは先見者の家はいつくにあるや請ふ我につげよ 一九 サムエル、サウルにこたへていひ

けるは我はすなはち先見者なり汝わがまへにゆきて崇邱にのぼれ汝ら今日我とともに食す可し明日われ汝をさら

三〇 しめ汝の心にあることを悉く汝にしめさん 二〇あつつか 三日まへに失たる汝の驢馬は既に見あたりたれば之をおもふ

三二 なかれ抑もイスラエルの總ての寶は誰の者なるや即ち汝と汝の父の家のものならずや 二二 サウルこたへていひ

けるは我はイスラエルの支派の最も小き支派なるベニヤミンの人にしてわが族はベニヤミンの支派の諸の族の

最も小き者に非やなんぞ斯る事を我にかたるや 二三 サムエル、サウルと其僕をみちびきて堂にいり招かれたる三十人ばかりの者の中の最も上に坐せしむ

三三 サムエル庖人にいひけるはわが汝にわたして汝の許におけといひし分をもちきたれ 二四くりやびとかた 庖人肩と肩に屬る者

をとりあげて之をサウルのまへに置くサムエルいひけるは視よ是は存へおきたる物なり汝のまへにおきて食へ

其はわれ民をまねきし時よりこれを汝の爲にたくはへおきたればなりかくてサウル此日サムエルとともに食せり

二五 崇邱をくだりて邑にいりし時サムエル、サウルとともに屋背の上にてものがたる 二六 かれら早くおく即ち

サムエル曙に屋背の上なるサウルをよびていひけるは起よわれ汝をかへさんとサウルすなはちおきあがるサウル

三七 とサムエルともに外にいで 邑の極處にくだれるときサムエル、サウルにいひけるは 僕に命じて我等の先に

ゆかしめよ(僕先にゆく)しかして汝暫くとどまれ我汝に神の言をしめさん。

第一〇章

一 サムエルすなはち膏の瓶をとりてサウルの頭に沃ぎ口接して曰けるはエホバ汝をたて、其産業の
長となしたまふにあらずや 汝今日我をはなれて去りゆく時ベニヤミンの境のゼルザにあるラケ

ルの墓のかたはらにて二人の人にあふべしかれら汝にいはん汝がたづねにゆきし驢馬は見あたりぬ汝の父驢馬の

三 ことをすて、汝らのことをおもひわづらひわが子の事をいかゞすべきやといへりと 其處より汝尙す、みて夕

ボルの椽の樹のところのいたらん彼處にてベテルにのぼり神にまうでんとする三人の者汝にあはん一人は三頭

四 の山羊羔を携へ一人は三團のパンをたづさへ一人は一囊の酒をたづさふ かれら汝に安否をとひ二團のパンを

五 汝にあたへん汝之を其手よりうくべし 其の後汝神のギベアにいたらん其處にペリシテ人の代官あり汝彼處

六 にゆきて邑にるとき一群の預言者の瑟と箏と笛と琴を前に執らせて預言しつゝ崇邱をくだるにあはん 其の

七 時神のみたま汝にのぞみて汝かれらとともに預言し變りて新しき人とならん 是らの徴汝の身におこらば手の

八 あたるにまかせて事を爲すべし神汝とともにいませばなり 汝我にさきだちてギルガルにくだるべし我汝の許

九 にくだりて燔祭を供へ酬恩祭を獻げんわが汝のもとに至り汝の爲すべきことを示すまで汝七日のあひだ待つべし

一〇 サウル背をかへしてサムエルを離れし時神之に新しき心をあたへたまふしかして此しるし皆其日におこれ

ふたり彼處にゆきてギベアにいたれるときみよ一群の預言者これにあふしかして神の靈サウルにのぞみて

- イ母前九・一六、一六、一七
- 一三王下九・三、六、七
- ホ番一八・二八
- チ士一八・一五
- 一四・一
- 一九・二三、二四
- 一五、一三、四
- ロ詩二・二二
- ヘ創三五・一九、二〇
- 又母前一三・三
- ワ民一一・二五
- 母前
- タ士九・三三
- ネ母前一〇・五
- ハ徒一三・二二
- ト創二八・二三、三五
- ル出一五・二〇、二一
- 一六・一三
- レ士六・二二
- ナ母前一九・二〇
- ニ申三三・九、詩七八
- 一、三、七
- 王下三・一五
- 聖前
- カ母前一〇・一〇、
- ソ母前一・一四、
- ラ母前一〇・六

ム母前一九・二四 太ウ餐五四・一三 約六 ノ士二一・二一、二〇 ク母前八・七、一九、 一七、 徒一・二四、 一〇、二一
 一三・五四、五五 約 四・五、七、一六 一母前二一・一五 一二・二二 二六 ケ母前九・二
 七・一五 徒四・二三 井母前七・五、六 オ士六・八、九 ヤ書七・一四、一六、 マ母前二三・二、四、 フ母後二一・六
 コ王上一・二五、三九 王下一・二二

二 サウルかれらの中にありて預言せり 素よりサウルを識る人々サウルの預言者と偕に預言するを見て互ひに

三 いひけるはキシの子サウル今何事にあふやサウルも預言者の中にあるやと 其處の人ひとり答へて彼等の父は

三 誰ぞやといふ是故にサウルも預言者の中にあるやといふは諺となれり サウル預言を終て崇邱にいたるに

一四 サウルの叔父サウルと僕にいひけるは汝ら何處にゆきしやサウルいひけるは驢馬を尋ねに出しが何處にも

一五 をらざるを見てサムエルの許にいたれり サウルの叔父いひけるはサムエルは汝に何をいひしか請ふ我につげ

一六 よ サウル叔父にいひけるは明かに驢馬の見あたりしを告げたりと然れどもサムエルが言る國王の事はこれに

つげざりき

一七 サムエル民をミヅバにてエホバのまへに集め 一八 イスラエルの子孫にいひけるはイスラエルの神エホバ斯

くいひたまふ我イスラエルをみちびきてエジプトより出し汝らをエジプト人の手および凡て汝らを虐遇る國人の

手より救ひいだせり 然るに汝らおのれを患難と難苦のうちより救ひいだしたる汝らの神を棄て且否われらに

二〇 王をたてよといへり是故にいま汝等の支派と群にしたがひてエホバのまへに出よ サムエル、イスラエルの諸

二 支派を呼よせし時ベニヤミンの支派籤にあたりぬ またベニヤミンの支派を其族のかずにしたがひて呼よせ

三 しときマテリの族籤にあたりキシの子サウル籤にあたり人々かれを尋ねしかども見出されば またエホバに

三 其人は此に来るや否やを問しにエホバ答たまはく視よ彼は行李のあひだにかくると 人々はせゆきて彼を其處

二四 よりつれきたれり彼民の中にたつに肩より以上民の何の人よりも高かりき サムエル民にいひけるは汝らエホ

バの擇みたまひし人を見るか民のうちには是人の如き者なし民みなよばはりいひけるは願くは王いのちながかれ

三三 時にサムエル王國の典章を民にしめして之を書にしるし之をエホバのまへに藏めたりしかしてサムエル民
 三六 をことごとく其家にかへらしむ サウルもまたギベアの家にかへるに神に心を感じられたる勇士等これとともに
 三七 にゆけり 然れども邪なる人々は彼人いかで我らを救はんやといひて之を藐視り之に禮物をおくらざりしかど
 サウルは啞のごとくせり

第一章

一 アンモニ人ナハシ、ギレアデのヤベシにのぼりて之を圍むヤベシの人々ナハシにいひけるは我ら
 二 と約をなせ然らば汝につかへん アンモニ人ナハシこれに答へけるは我かくして汝らと約をなさ
 三 ん即ち我汝らの右の目を抉りてイスラエルの全地に恥辱をあたへん ヤベシの長老これにいひけるは我らに
 四 七日の猶豫をあたへて使をイスラエルの四方の境におくることを得さしめよ而して若し我らを救ふ者なくば我ら
 五 汝にくだらん 斯て使サウルのギベアにいたり此事を民の耳に告しかば民皆聲をあげて哭きぬ 爰にサウル
 六 田より牛にしたがひて来るサウルいひけるは民何によりて哭くやと人々これにヤベシ人の事を告ぐ
 七 サウル之を聞るとき神の靈これに臨みてその怒甚だしく燃えたち 一軛の牛をころしてこれを切り割き
 八 使の手をもてこれをイスラエルの四方の境にあまねくおくりていはしめけるは誰にてもサウルとサムエルにした
 九 がひて出ざる者は其牛かくのごとくせらるべしと民エホバを畏み一人のごとく均くいであり サウル、ベゼク
 一〇 にてこれを數ふるにイスラエルの子孫三十萬ユダの人三萬ありき 斯て人々來れる使にいひけるはギレアデの
 一一 ヤベシの人にかくいへ明日日の熱き時汝ら助を得んと使かへりてヤベシ人に告げければ皆よろこびぬ 是を

イ申一七・一四 母前 二申一三・二三 一一 二〇・三四 伯四一 一五・三四 母後 一三・二五、一四・ヨ士二〇・一
 八・一一 水母後八・二二 王上四 へ母前二二・二二 四結一七・二三 二二・六 六母前一〇・一〇、タ士一・五 七士七・二六
 一〇士二〇・二四 母前 二二、一〇・二五 ト士二一・八 一六・二三 一六・二三 一六・二三 一六・二三 一六・二三 一六・二三
 一・一四 代下二七・五 詩 十創二六・二八 出 一七・二六 七士三・一〇、六、七士一九・二九 一六・二三 一六・二三 一六・二三
 八母前二二・二三 七三・一〇 太二、 三三・三三 王上 又母前一〇・二六、 三四、一一・二九、カ士三一・五、八、一〇 ソ母前一一・三
 ツ母前三一・一一 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六
 ナ母前一〇・二七 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六
 ラ路一九・二七 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六 七士七・二六
 ム出一四・二三、三〇

母前一九・五
 ウ母後一九・二二
 井母前一〇八
 ノ母前一〇・一七
 オ母前一〇・八
 ク母前八・五、一九、
 二〇
 ヤ母前一〇・二四、
 一一、一四、一五、
 マ民二七・一七
 母前
 フ母前二二・五、一〇
 コ民一六・一五
 徒
 エ申一六・一九
 二、二四・六
 母後
 二〇・三三
 撒前二
 テ出二二・四
 ア約一八・三八
 徒
 サ米六・四
 三三・九、
 二四、
 一六、二〇

二 もてヤベシの人云けるは明日汝らに降らん汝らの善と思ふところを爲せ 明日サウル民を三隊にわかち曉更に
 敵の軍の中にいりて日の熱くなる時までアンモニ人をころしければ遺れる者は皆ちりぢりになりて二人俱にある
 ものなかりき

二三 民サムエルにいひけるはサウル豈我らの王となるべけんやと言しは誰ぞや其人を引き來れ我ら之をころさ
 二三 サウルいひけるは今日エホバ救をイスラエルに施したまひたれば今日は人をころすべからず

二四 茲にサムエル民にいひけるはいざギルガルに往て彼處にて王國を新にせんと 民みなギルガルにゆきて
 彼處にてエホバのまへにサウルを王となし彼處にて酬恩祭をエホバのまへに獻げサウルとイスラエルの人々皆
 かしこにて大に祝へり

第一章

一 サムエル、イスラエルの人々にいひけるは視よ我汝らが我にいひし言をことごとく聽て汝らに
 王を立たり 見よ今王汝らのまへにあゆむ我は老て髮しろし視よわが子ども汝らと共にあり我

二 幼稚時より今日にいたるまで汝等のまへにあゆめり 視よ我こゝにありエホバのまへと其膏そゝぎし者のまへ
 に我を訴へよ我誰の牛を取りしや誰の驢馬をとりしや誰を掠めしや誰を虐遇しや誰の手より賄賂をとりてわが目

三 を蒙せしや有ば我これを汝らにかへさん 彼らいひけるは汝は我らをかすめずくるしめず又何をも人の手より
 取りしことなし サムエルかれらにいひけるは汝らが我手のうちに何をも見いださざるをエホバ汝らに證し

四 たまふ其膏そゝぎし者も今日證す彼ら答へけるは證したまふ
 六 サムエル民にいひけるはエホバはモーセとアロンをたてし者汝らの先祖をエジプトの地より導きいだせし

八 耶一四・二一 九四・一四 ア徒一二・五 羅一・サ王上八・三六 代下 二一
 結三〇・九・一四 テ申七・七・八、一四 九 西一・九 提後 六・二七 耶六・一六 ユ傳二・一三
 エ王上六・一三 詩 二二 馬一・二二 一・三 半詩三四・一一 彼四ノ申一〇・二二 詩 中二八・三六
 一三六・二、三 一 賽五・二二 二 母前一〇・二六 七 創三四・三〇 出五
 二二 二 士六・二二

一九 民みなサムエルにいひけるは僕らのために汝の神エホバにいのりて我らを死なざらしめよ我ら諸の罪に
 二〇 また王を求むるの悪をくはへたればなり サムエル民にいひけるは懼るなかれ汝らこの總ての悪をなしたり
 二一 されどエホバに従ふことを息ず心をつくしてエホバに事へ 虚しき物に迷ひゆくなかれ是は虚しき物なれば
 二三 汝らをおのれの民となすことを善としたまへばなり エホバ其大なる名のために此民をすてたまはざるべし其はエホバ
 二四 汝らをおのれの民となすことを善としたまへばなり また我は汝らのために祈ることをやめてエホバに罪を
 二五 て誠まことにこれにつかへよ而して如何いかに大なることをエホバ汝らになしたまひしかを思ふ可し しかれども汝ら
 もしなほ悪あくをなさば汝らと汝らの王ともにほろぼさるべし

第一三章

一 サウル三十歳にて王の位に即く彼二年イスラエルををさめたり 爰にサウル、イスラエル人
 三千を擇む其二千はサウルとともにミクマシおよびベテルの山地にあり其一千はヨナタンとともに
 二 ベニヤミンのギベアにあり其餘の民はサウルおのおの其幕屋にかへらしむ ヨナタン、ゲバにあるペリシテ人
 の代官をころせりペリシテ人之れをきく是においてサウル國中にあまねくラツバを吹ていはしめけるはへブル人
 四 よ聞くべし イスラエル人皆聞けるに云くサウル、ペリシテ人の代官を撃りしかしてイスラエル、ペリシテ人
 五 の中に悪まると斯て民めされてサウルにしたがひギルガルにいたる
 六 ペリシテ人イスラエルと戦はんとて集りけるが兵車三百 騎兵六千にして民は濱の沙の多きがごとくなり
 七 き彼らのぼりてベテアベンにむかへるミクマシに陣をとれり イスラエルの人苦められ其危きを見て皆巖穴

七 林叢に崗巒に高塔に坎阱にかくれたり また或るへブル人はヨルダンを渉りてガドとギレアデの地にいたる 然るにサウルは尙ギルガルにあり民皆戰慄て之にしたがふ

八 サウル、サムエルの定めし期にしたがひて七日とゞまりしがサムエル、ギルガルに來らず民はなれて散ければ サウルいひけるは燔祭と酬恩祭を我にもちきたれと遂に燔祭をさゝげたり 燔祭をさゝぐることを終

九 しときに視よサムエルいたるサウル安否を問はんとてこれをいで迎ふに サムエルいひけるは汝何をなせしや

二 サウルいひけるは我民の我をはなれてちりまた汝の定まれる日のうちに來らずしてペリシテ人のミクマシに集ま

三 れるを見しかば ペリシテ人ギルガルに下りて我をおそはんに我いまだエホバをなごめずといひて勉て燔祭を

三 さゝげたり サムエル、サウルにいひけるは汝おろかなることをなせり汝その神エホバのなんちに命じたまひ

し命令を守らざりしなり若し守りしならばエホバ、イスラエルををさむる位を永く汝に定めたまひしならん

四 然どもいま汝の位たもたざるべしエホバ其心に適ふ人を求めてエホバ之に其民の長を命じたまへり汝がエホ

五 バの命ぜしことを守らざるによる かくてサムエルたちてギルガルよりベニヤミンのギベアにのぼりいたる

六 サウルおのれとともにある民をかぞふるに凡そ六百人有りき サウルおよび其子ヨナタン並にこれと

七 ともにある民はベニヤミンのゲバに居りペリシテ人はミクマシに陣を張る 劫掠人三隊にわかれてペリシテ人

八 の陣よりいで一隊はオフラの路にむかひてシユアルの地にいたり 一隊はベテホロンの道に向ひ一隊は曠野の

方にあるゼボイムの谷をのぞむ境の路にむかふ

九 時にイスラエルの地のうち何處にも鐵工なかりき是はペリシテ人へブル人の劍あるひは槍を作ること

を恐

イ母前一〇・八 二母前一五・二八 へ母前一四・二
口代下一六・九 ホ詩八九・二〇 徒 ト母前一三・三
ハ母前一五・二 一三・二二 一三・二二 一三・二二
リ書一六・三、一八・ル王下二四・一四 耶
一三・一四 二四・一
又尼一一・三四

二〇 れたればなり 二〇 イスラエル人皆其耜鋤斧耒即ち耜鋤三齒鋤斧の鏝に欠ありてこれを鍛ひ改さんとす
二一 時又は鞭を尖らさんとす時は常にペリシテ人の所にくだれり 二二 是をもて戦の日にサウルおよびヨナタンと
二三 ともにある民の手には劍も槍も見えず只サウルと其子ヨナタンのみ持り 二四 茲にペリシテ人の先陣ミクマシの
渡口に進む

第一四章

一 其時サウルの子ヨナタン武器を執る若者にいひけるはいざ對面にあるペリシテ人の先陣に涉り
二 ゆかんと然ど其父には告ざりき 三 サウル、ギベアの極においてミグロンにある石榴の樹の下に住
三 まりしが俱にある民はおよそ六百人なりき 四 又アヒヤ、エボデを衣てともにをるアヒヤはアヒトブの子アヒ
四 トブはイカボデの兄弟イカボデはビネハスの子ビネハスはシロにありてエホバの祭司たりしエリの子なり民ヨ
五 ナタンの行けるをしらざりき 六 ヨナタンの涉りてペリシテ人の先陣にいたらんとする渡口の間に此傍に巉巖
五 あり彼傍にも巉巖あり一の名をボゼツといひ一の名をセネといふ 六 其一は北に向ひてミクマシに對し一は南に
むかひてゲバに對す

六 ヨナタン武器を執る少者にいふいざ我ら此割禮なき者どもの先陣にわたらんエホバ我らのためにはたらき
七 たまふことあらん多くの人をもて救ふも少き人をもてすくふもエホバにおいては妨げなし 八 武器をとるもの之
八 にいひけるは總て汝の心にあるところをなせ進めよ我汝の心にしたがひて汝とともにあり 九 ヨナタンいひける
九 は見よ我らかの人々のところにてわたり身をかれらにあらはさん 一〇 かれら若し我らが汝らにいたるまでとゞまれ
一〇 と斯く我らにいはいはゞ我らはこのまゝとゞまりてかれらの所にのぼらじ 一一 されど若し我らのところにのぼれと

二 かくいはゞ我らのぼらんエホバかれらを我らの手にわたしたまふなり是を徴となさんと 斯て二人其身をペリ

シテ人の先陣にあらはしければペリシテ人いひけるは視よヘブル人其かくれたる穴よりいで來ると すなはち

先陣の人ヨナタンと其武器を執る者にこたへて我等の所に上りきたれ目に物見せんといひしかばヨナタン武器を

執る者にいひけるは我にしたがひてのぼれエホバ彼らをイスラエルの手にわたしたまふなり ヨナタン攀のぼ

り其武器を執るもの之にしたがふペリシテ人ヨナタンのまへに仆る武器をとる者も後にしたがひて之をころす

ヨナタンと其武器を取るもの手はじめに殺せし者およそ二十人此事田畑半段の内になれり しかして野に

ある陣のものおよび凡ての民の中に戦慄おこり先陣の人および劫掠人もまたをのゝき地ふるひ動けり是は神より

の戦慄なりき

ベニヤミンのギベアにあるサウルの戌卒望見しに視よペリシテ人の群衆くづれて此彼にちらばる 時に

サウルおのれとともになる民にいひけるは汝ら點驗て誰が我らの中よりゆきしかを見よとすなはちしらべたるに

ヨナタンとその武器を執るもの居らざりき サウル、アヒヤにエポデを持きたれといふ其はかれ此時イスラエ

ルのまへにエポデを著たれば也 サウル祭司にかたれる時ペリシテ人の軍の騒いよいよましたりければサウル

祭司にいふ姑く汝の手を措けと かくてサウルおよびサウルと共にある民皆呼はりて戦ひに至るにペリシテ人

おのおの劍を以て互に相撃ちければ其敗績はなはだ大なりき また此時よりまへにペリシテ人とともにありて

ペリシテ人と共に上りて陣に來るところのヘブル人もまた翻へりてサウルおよびヨナタンと共にあるイスラエル

人に合せり 又エフライムの山地にかくれたるイスラエル人皆ペリシテ人の逃るを聞てまた戦ひに出て之を追

イ創二四・一四 士七 八王下七・七 伯一八 ホ創三五・五 代下
一・二一 二母前二一・二七 二母前二七・二一 二母前二七・二一
ト民二七・二一 二母前二七・二一 二母前二七・二一

又出四・三〇 詩 七書六・二六 二七 太三・四 一九・二六 申一・二
四四・六、七、何一・七 王中九・二八 太三・五 ヨ利三・一七、七 一六・二三、二四
ル母前一三・五 力出三・八 民一三・ 二六、一七、一〇、 夕母前七・一七

二三 撃り 是の如くエホバ此日イスラエルをすくひたまふ而して戦はベテアベンにうつれり

二四 されど此日イスラエル人苦めり其はサウル民を誓はせて夕まで即ちわが敵に仇をむくゆるまでに食物を食

二五 ふ者は呪詛れんと言たればなり是故に民の中に食物を味ひし者なし 爰に民みな林森に至に地の表に蜜あり

二六 即ち民森にいたりて蜜のながるゝをみる然ども民誓を畏るれば誰も手を口につくる者なし 然にヨナタン

二七 其父が民をちかはせしを聞ざりければ手にある杖の末をのばして蜜にひたし手を口につけたり是に由て其目

二八 あきらかになりぬ 時に民のひとり答て言けるは汝の父かたく民をちかはせて今日食物をくらふ人は呪詛はれ

二九 んと言り是に由て民つかれたり ヨナタンいひけるはわが父國を煩せり請ふ我この蜜をすこしく嘗しによりて

三〇 如何にわが目の明かになりしかを見よ ましてや民今日敵よりうばひし物を十分に食しならばペリシテ人を

ころすこと更におほかるべきにあらずや

三一 イスラエル人かの日ペリシテ人を撃てミクマシよりアヤロンにいたる而して民はなはだ疲たり 是に

三二 おいて民劫掠物に走かゝり羊と牛と犢とを取りて之を地のうへにころし血のまゝに之をくらふ 人々サウルに

三三 つげていひけるは民肉を血のまゝに食ひて罪をエホバにかすとサウルいひけるは汝ら背けり直ちにわがもとに

三四 大石をまろばしきたれ サウルまたいひけるは汝らわかれて民のうちにいりていへ人各其牛と各其羊をわ

三五 がもとに引ききたり此處にてころしくらへ血のまゝにくらひて罪をエホバに犯すなかれと此において民おのおの

この夜其牛を手ひききたりて之をかしこにころせり しかしてサウル、エホバに一つの壇をきづく是はサウ

ルのエホバに壇を築ける始なり

三六 斯かくてサウルいひけるは我われら夜のうちにペリシテ人を追おくたり夜明よあけまでかれらを掠かめて一人をも残のこすまじ皆みな

三七 いひけるは凡すべて汝なんぢの目に善よしとみゆる所ところをなせと時に祭司さいしいひけるは我われら此こゝにちかより神かみにもとめんと サウル

神かみに我われベリシテ人びとをおひくたるべきか汝なんぢかれらをイスラエルの手にわたしたまふやと問とけれど此このひ日はこたへたま

三八 はざりき 是こゝにおいてサウルいひけるは民たみの長かしらたちよ皆みな此こゝにちかよれ汝なんぢらみて今日けふのこの罪つみのいづくにあるを

三九 知しれ 三九 イスラエルを救すくひたまへるエホバはいく假令たとひわが子こヨナタンにもあれ必ず死しなざるべからずとされど民たみ

四〇 のうち一人ひとりもこれにこたへざりき サウル、イスラエルの人々ひとぐにいひけるはなんぢらは彼處かなたにをれ我われとわが子こ

四一 ヨナタンは此處こゝにをらんと民たみいひけるは汝なんぢの目めによしとみゆるところをなせ サウル、イスラエルの神かみエホバ

四二 にいひけるはねがはくは眞實まことをしめしたまへとかくてヨナタンとサウル籤くじにあたり民たみはのがれたり サウルい

ひけるは我われとわが子このあひだの鬪くじを掣ひけと即すなはちヨナタンこれにあたれり

四三 サウル、ヨナタンにいひけるは汝なんぢがなせしところを我われに告つひよヨナタンつけていひけるは我われは只ただわが手ての杖つゑ

四四 の末すまをもて少許すこしの蜜みつをなめしのみなるが我われしなざるをえす サウルこたへけるは神かみかくなしましたかさねてかく

四五 なしたまへヨナタンよ汝なんぢ死しざるべからず 民たみサウルにいひけるはイスラエルの中に此この大おほなるすくひをなせる

ヨナタン死しぬべけんや決きはめてしからずエホバは生いくヨナタンの髪かみの毛けひとすぢも地ちにおつべからず其そはかれ神かみと

四六 ともに今日けふはたらきたればなりとかく民たみヨナタンをすくひて死しなざらしむ サウル、ペリシテ人びとを追おふことを

息やすてのほりぬペリシテ人びと其國そのくににかへれり

四七 かくてサウル、イスラエルの王わうの位くらゐにつきて四方よもの敵てきを攻せむ即すなはちモアブ、アンモンの子孫ひとぐエドム、ゾバの

イ母前二八・六 一〇・一九 二母後二二・五 へ書七・一六 母前 下書七・一九 又母前二四・三九 一八
ロ士二〇・二 二母後二二・五 へ書七・一六 母前 下書七・一九 又母前二四・三九 一八
ハ書七・一四 母前 ホ鏡一六・三三 徒一 一〇・二〇 二一 母前 下書七・一九 又母前二四・三九 一八
リ得一・二七 上二・五二 路二一 一 母後一〇・六
カ母前二五・三七

ヨ母前三一・二 代上レ母前八・二一 二四・二〇 申二五 書六・一七、二一 ラ創一八・二五、一九 ム出一八・一〇、一九 井創二・二一、二五・オ王上二〇・三四、
八・三三 ソ母前九・二六 一七、一八、一九 ナ民二四・二一 士一 二二、一四 獸一八 民一〇・二九、三一 一八 三五
タ母前九・一 ツ出一七・八、一四 民 本利二七・二八、二九 一六、四・一一 四 ウ母前一四 四八 ノ創一六・七 ク母前三〇・一

四八 王たちおよびペリシテ人をせめけるに凡てむかふところにて勝利を得たり 四八 サウル力をえアマレク人をうちて

イスラエルを其劫掠人の手よりすくひいだせり

四九 サウルの子はヨナタン、エスイおよびマルキシユアなり其二人の女子の名は姉はメラブといひ妹はミカ

五〇 サウルの妻の名はアヒノアムといひてアヒマアズの女子なり其軍の長の名はアブネルといひてサウ

五二 ルの叔父なるネルの子なり サウルの父キシとアブネルの父ネルはアビエルの子なり

五三 サウルの一生のあひだ恒にペリシテ人と烈しき戦ありサウルは力ある人または勇ある人を見るごとにこれ

をかゝへたり

第一五章

一 茲にサムエル、サウルにいひけるはエホバ我をつかはし汝に膏を沃きて其民イスラエルの王とな

二 さしめたりさればエホバの言の聲をきけ 萬軍のエホバかくいひたまふ我アマレクがイスラエル

三 になせし事すなはちエジプトよりのぼれる時其途を遮りしをかへりみる 今ゆきてアマレクを撃ち其有る物を

四 ことごとく滅しつくし彼らを憐むなかれ男女童稚哺乳兒牛羊駱駝驢馬を皆殺せ

五 四 サウル民をよびあつめてこれをテライムに核ふ歩兵二十萬ユダの人一萬あり しかしてサウル、アマレ

六 クの邑にいたりて谷に兵を伏たり サウル、ケ二人にいひけるは汝らゆきてさりアマレク人をはなれくだるべ

七 し恐らくはかれらとともに汝らをほろぼすにいたらんイスラエルの子孫のエジプトよりのぼれる時汝らこれに恩

八 みをほどこしたりと即ちケ二人アマレク人をはなれてさりぬ サウル、アマレク人をうちてハピラよりエジプ

ハ トの東面なるシユルにいたる サウル、アマレク人の王アガグを生擒り刃をもて其民をことごとくほろぼせり

九 然どもサウルと民アガグをゆるしまた羊と牛の最も嘉きもの及び肥たる物並に羔と凡て善き物を残して之を
 ほろぼしつくすをこのまず但悪き弱き物をほろぼしつくせり

一〇 時にエホバの言サムエルにのぞみていはく 我サウルを王となせしを悔ゆ其は彼背きて我にしたがはず

一一 わが命をおこなはざればなりとサムエル憂て終夜エホバによばはれり かくてサムエル、サウルにあはんとて

一二 夙く起きけるにサムエルにつぐるものありていふサウル、カルメルにいたり勝利の表を立て轉り進みてギルガル

一三 にくだれりと サムエル、サウルの許に至りければサウルこれにいひけるは汝がエホバより福祉を得んことを

一四 ねがふ我エホバの命を行へりと サムエルいひけるは然らばわが耳にいる此羊の聲およびわがきく牛のこゑは

一五 何ぞや サウルいひけるは人々これをアマレク人のところより引ききたれり其は民汝の神エホバにささげん

一六 ために羊と牛の最も嘉きものをのこせばなり其ほかは我らほろぼしつくせり サムエル、サウルにいひけるは

止まれ昨夜エホバの我にかたりたまひしことを汝につげんサウルいひけるはいへ

一七 サムエルいひけるはさきに汝が微き者とみづから憶へる時に爾イスラエルの支派の長となりしに非ずや即

一八 ちエホバ汝に膏を注いでイスラエルの王となせり エホバ汝を途に遣はしていひたまはく往て悪人なるアマレ

一九 ク人をほろぼし其盡るまで戦へよと 何故に汝エホバの言をきかずして敵の所有物にはせかゝりエホバの目の

二〇 まへに惡をなせしや サウル、サムエルにいひけるは我誠にエホバの言にしたがひてエホバのつかはしたまふ

二一 途にゆきアマレクの王アガグを執きたりアマレクをほろぼしつくせり たゞ民其ほろぼしつくすべき物の最初

二二 としてギルガルにて汝の神エホバにささげんとて敵の物の中より羊と牛をとれり サムエルいひけるはエホバ

イ母前一五・三、一五 一六 二母前一三・一三 一六・一 一七・二得三・一〇 一三三 一七母前一五・一五
 口母前一五・三五 創一八・二二 王上 一五・三、九 一六・一 一七母前一五・九、二一 一七母前一五・二二
 六・六、七 母後二四 九・六 二母前一五・三五、 卜創一四・一九 士 創三・二二 二八 又母前一五・一三 二一・三 賽一・
 三 米六・六、八
 一七母前一五・一五 一七母前一五・一五 一七母前一五・一五 一七母前一五・一五
 一七母前一五・一五 一七母前一五・一五 一七母前一五・一五 一七母前一五・一五

六五・二四・九・一 カ申一八・一〇
三、一二・七 可ヨ母前二一・一四

レ出二二・二一 機二九 ヲ母前二・三〇
二、二五 葬五・一 ツ王上一・三〇

ナ民二二・一九 結ヲ約五・四四、一二、
四五・七一・七

はその言にしたがふ事を善したまふごとく燔祭と犠牲を善したまふや夫れ順ふ事は犠牲にまさり聽く事は牡羔の脂にまさるなり 其三は違逆は魔術の罪のごとく抗戾は虚しき物につかふる如く偶像につかふるがごとし汝エホ

バの言を棄たるによりエホバもまた汝をすて王たらしめたまふ

二四 サウル、サムエルにいひけるは我エホバの命と汝の言をやぶりて罪ををかしたり是は民をおそれて其言に

二五 したがひたるによりてなり されば今ねがはくはわがつみをゆるし我とともにかへりて我をしてエホバを拜す

二六 ることをえさしめよ サムエル、サウルにいひけるは我汝とともにかへらじ汝エホバの言を棄たるによりエホ

二七 バ汝をすてイスラエルに王たらしめたまはざればなり サムエル去らんとて振還しときサウルその明衣の裾

二八 を捉へしかば裂たり サムエルかれにいひけるは今日エホバ、イスラエルの國を裂て汝よりはなし汝の隣なる

二九 汝より善きものにこれをあたへたまふ またイスラエルの能力たる者は謙らず悔す其はかれは人にあらざれば

三〇 くゆることなし サウルいひけるは我罪ををかしたれどねがはくはわが民の長老のまへおよびイスラエルのま

三一 へにて我をたふとみて我とともにかへり我をして汝の神エホバを拜むことをえさしめよ ことにおいてサムエ

ル、サウルにしたがひてかへるしかしてサウル、エホバを拜む

三二 時にサムエルいひけるは汝らわが許にアマレクの王アガグをひききたれとアガグ喜ばしげにサムエルの許

三三 にきたりアガグいひけるは死の苦みは必ず過さりぬ サムエルいひけるは汝の劍はおほくの婦人を子なき者と

なせりかくのごとく汝の母は婦人の中の最も子なき者となるべしとサムエル、ギルガルにてエホバのまへにおい

てアガグを斬り

かくてサムエルはラマにゆきサウルはサウルのギベアにのぼりてその家にいたる 三三 サムエル其しぬる日 三四 までふたゝびきたりてサウルをみざりきしかれどもサムエル、サウルのためにかなしめりまたエホバはサウルを 三五 イスラエルの王となせしを悔たまへり

第一六章

一 爰にエホバ、サムエルにいひたまひけるは我すでにサウルを棄てイスラエルに王たらしめざるに 一 汝いつまでかれのために歎くや汝の角に膏油を満してゆけ我汝をベテレヘム人エサイの許につかは 二 さん其は我其子の中にひとりの王を尋ねえたればなり 三 サムエルいひけるは我いかで往くことをえんサウル聞 四 て我をころさんエホバいひたまひけるは汝一幘を携へゆきて言へエホバに犠牲をさゝげんために來ると 五 しか 六 してエサイを犠牲の場によべ我汝が爲すべき事をしめさん我汝に告るところの人に膏をそゝぐ可し 七 サムエル、 八 エホバの語たまひしごとくなしてベテレヘムにいたる邑の長老おそれて之をむかへいひけるは汝平康なる事のた 九 めにきたるや 一〇 サムエルいひけるは平康なることのためなり我はエホバに犠牲をさゝげんとてきたる汝ら身を 一一 きよめて我とともに犠牲の場に来たれと斯てエサイと其諸子を潔めて犠牲の場によびきたる 一二 一三 六 かれらが至れる時サムエル、エリアブを見ておもへらくエホバの膏そゝぐものは必ず此人ならんと 一四 し 一五 かるにエホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を觀るなかれ我すでにかれをすてたりわが視るところ 一六 は人に異なり人は外の貌を見エホバは心をみるなり 一七 エサイ、アビナダブをよびてサムエルのまへを過しむサ 一八 ムエルいひけるは此人もまたエホバ擇みたまはず 一九 エサイ、シヤンマを過しむサムエルいひけるは此人もまた 二〇

イ母前一・四 一五・二〇 徒二三 九・二六 三母前一七・二三 代 一〇、二〇・二二 一五
 ロ母前一九・二四 一五・三五 二二 二七・一八 七母後一〇・七 徒一・二四
 ハ母前一五・一一、一 母前九・一六 王下 九・二二、二〇 王上三・二三 王下 一五上・二二、二六 二王上八・三九 代上 一七・一三
 六・二 九・一 九・三 一四七・一〇、一 二八・九 詩七・九 一母前一七・一三 母
 二母前一五・一一 詩七八・七〇、八九 又出四・一五 九・三 一 耶一・二〇、一七 後一三・三 代上二

ム母前七・二二 ノ母前九・一七 二五、一四・六、母 五一・二一 上二〇・八 エ母前三・一九、一八 七・一八 創四三・
ウ母後七・八 詩七八 オ母前一〇・一 詩 前二〇・六、一〇 マ士九・二三 母前一 下母前二六・二三 王 一一 一八・一六
七〇 八九・二〇 ヤ士一六・二〇 母前 八・二〇、一九・九 下三・一五 下母前二六・二一、一 一 創四一・四六 王上
井母前二七・四二 歌 夕民二七・一八 士 一一・六、一八・一 一 創四一・四六 母前 二 母前二七・三三、三 七・二五、三四 一〇・八 二二
五・一〇 一一・二九、一三 二、二八・一五 詩 一六・二二、二二 王 四、三五、三六 ア母前一〇・二七、一 二九

一〇 エホバえらみたまはず 一〇 エサイ其七人の子をしてサムエルの前をすぎしむサムエル、エサイにいふエホバ是等
二 をえらみたまはず 二 サムエル、エサイにいひけるは汝の男子は皆此にをるやエサイいひけるは尙季子のこれり
彼は羊を牧をるなりとサムエル、エサイにいひけるは彼を迎へきたらしめよかれが此にいたるまでは我ら食に就
かざるべし 三 是において人をつかはしてかれをつれきたらしむ其人色赤く目美しくして其貌麗しエホバいひ
たまひけるは起てこれにあぶらを沃げ是其人なり 三 サムエル膏の角をとりて其兄弟の中にてこれに膏をそゝげ
り此日よりのちエホバの靈ダビデにのぞむサムエルはたちてラマにゆけり
一四 かくてエホバの靈サウルをはなれエホバより來る惡鬼これを惱せり 一四 サウルの臣僕これにいひけるは視
一六 よ神より來れる惡鬼汝をなやます 一六 ねがはくはわれらの主汝のまへにつかふる臣僕に命じて善く琴を鼓く者
一七 一人を求めしめよ神よりきたれる惡鬼汝に臨む時彼手をもて琴を鼓て汝いゆることをえん 一七 サウル臣僕にいひ
けるはわがために巧に鼓琴者をたづねてわがもとにつれきたれ 一八 時に一人の少者こたへていひけるは我ベテレ
ヘム人エサイの子を見しが琴に巧にしてまた豪氣して善くたゝかふ辯舌さはやかなる美しき人なりかつエホバこ
一九 れとともにいます 一九 サウルすなはち使者をエサイにつかはしていひけるは羊をかふ汝の子ダビデをわがもとに
二〇 遣はせと 二〇 エサイすなはち驢馬にパンを負せ一囊の酒と山羊の羔を執りてこれを其子ダビデの手によりてサウ
二一 ルにおくれり 二一 ダビデ、サウルの許にいたりて其まへに事ふサウル大にこれを愛し其武器を執る者となす
二二 サウル人をエサイにつかはしていひけるはねがはくはダビデをしてわが前に事へしめよ彼はわが心にかなへ

三三 神より出たる悪鬼サウルに臨めるときダビデ琴を執り手をもてこれを弾にサウル慰さみて愈え悪鬼かれをはなる

第十七章

一 爰にペリシテ人其軍を集めて戦はんとしユダに属するシヨコにあつまりシヨコとアゼカの間なる

二 パスダミムに陣をとる サウルとイスラエルの人々集まりてエラの谷に陣をとりペリシテ人にむ

三 かひて軍の陣列をたつ ペリシテ人は此方の山にたちイスラエルは彼方の山にたつ谷は其あひだにあり

四 時にペリシテ人の陣よりガテのゴリアテと名くる挑戦者いできたる其身の長六キユビト半 首に銅の盔を戴

五 き身に鱗綴の鎧甲を着たり其よろひの銅のおもさは五千シケルなり また脛には銅の脛當を着け肩の間に銅

六 の矛戟を負ふ 其槍の柄は機の梁のごとく槍の鋒刃の鐵は六百シケルなり楯を執る者其前にゆく

七 立てイスラエルの諸行伍によははり云けるは汝らはなんぞ陣列をなして出きたるや我はペリシテ人にして汝らは

八 サウルの臣下にあらずや汝ら一人をえらみて我とくたせ 其人もし我とたゝかひて我をころすことをえ

九 ば我ら汝らの臣僕とならんされど若し我かちてこれを殺さば汝ら我らの僕となりて我らに事ふ可し

一〇 かくて此

二 ペリシテ人いひけるは我今日イスラエルの諸行伍を挑む一人をいだして我と戦はしめよと

三 サウルおよびイスラエルみなペリシテ人のこの言を聞き驚きて大に懼れたり

四 抑ダビデはかのベレヘムユダのエフラタ人エサイとなづくる者の子なり此人八人の子ありしがサウルの

五 世には年邁みてすでに老たり

六 エサイの長子三人ゆきてサウルにしたがひて戦争にいづ其戦にいでし三人の子

七 の名は長をエリアブといひ次をアビナダブといひ第三をシヤンマといふ

八 ダビデは季子にして其兄三人はサウ

イ母前二六・一四、一八書一五・三五 代下 一六・二、一八、一七 一 代上三・一三、 代上二・一三
 六 二八・一八 へ母後二二・一九 二 代上二・一三 母前二二・一九 後二二・二一 一四、一五
 口母前二一・五 二 代上二・一三 母前二二・一九 母 一六・二、一八、一七 一 代上三・一三、 代上二・一三
 母前二二・一九 母前二二・一九 母 一六・二、一八、一七 一 代上三・一三、 代上二・一三
 母前二二・一九 母 一六・二、一八、一七 一 代上三・一三、 代上二・一三

ヨ母前一六・一九
 タ創三七・一四
 レ母前二六・五
 ツセ一八・二五
 ツ母前一七・八
 本番一五・二六
 ナ祖前一一・二
 ラ母前一四・六
 ム申五・二六
 ウ母前一七・一〇
 井母前一七・二五
 ノ創三七・四、八、一一
 太一〇〇三六

二五 ルにしたがへり 一五 ダビデはサウルに往來してベテレヘムにて其父の羊を牧ふ 一六 彼ペリシテ人四十日のあひだ

朝夕近づきて前にたてり

一七 時にエサイ其子ダビデにいひけるは今汝の兄のために此烘麥一斗と此十のパンを取りて陣營にをる兄の

一八 ところにいそぎゆけ 一八 また此十の乾酪をとりて其千夫の長におくり兄の安否を視て其返事ももちきたれと

一九 サウルと彼等およびイスラエルの人は皆ペリシテ人とたゝかひてエラの谷にありき 二〇 ダビデ朝夙くおきて

羊をひとりの牧者にあづけエサイの命ぜしごとく携へゆきて車營にいたるに軍勢いでて行伍をなし鯨波をあげ

二二 たり 二二 しかしてイスラエルとペリシテ人陣列をたてゝ行伍を行伍に相むかはせたり 二三 ダビデ其荷をおろして

荷をまもる者の手にわたし行伍の中にはせゆきて兄の安否を問ふ 二三 ダビデ彼等と俱に語れる時視よペリシテ人

の行伍よりガテのペリシテのゴリアテとなづくる彼の挑戦者のほりきたり前のことばのごとく言しかばダビデ

二四 之を聞けり 二四 イスラエルの人其人を見て皆逃て之をはなれ痛く懼れたり 二五 イスラエルの人いひけるは汝ら

こののほり來る人を見しや誠にイスラエルを挑んとて上りきたるなり彼をころす人は王大なる富を以てこれを

二六 とまし其女子をこれにあたへて其父の家にはイスラエルの中にて租税をまぬかれしめん 二六 ダビデ其傍にたて

る人々にかたりていひけるは此ペリシテ人をころしイスラエルの耻辱を雪ぐ人には如何なることをなすや此割禮

二七 なきペリシテ人は誰なればか活る神の軍を擲む 二七 民まへのごとく答へていひけるはかれを殺す人には斯のごと

くせらるべしと

二八 兄エリアブ、ダビデが人々とかたるを聞しかばエリアブ、ダビデにむかひて怒りを發しいひけるは汝なに

のために此に下りしや彼の野にあるわづかの羊を誰にあづけしや我汝の傲慢と悪き心を知る其は汝戦争を見んと

て下ればなり 三〇 ダビデいひけるは我今なにをなしたるや只一言にあらずやと 三〇 また 又ふりむきて他の人にむかひ

前のごとく語れるに民まへのごとく答たり

三二 人々ダビデが語れる言をきゝてこれをサウルのまへにつげければサウルかれを召す 三三 ダビデ、サウルに

三三 いひけるは人々かれがために氣をおとすべからず僕ゆきてかのペリシテ人とたゝかはん 三三 サウル、ダビデにい

ひけるは汝はかのペリシテ人をむかへてたゝかふに勝ず其は汝は少年なるにかれは若き時よりの戦士なればなり

三四 ダビデ、サウルにいひけるは僕さきに父の羊を牧るに獅子と熊と來りて其群の羔を取たれば 三五 そのあと

て之を搏ち羔を其口より援ひいだせりしかして其獸我に猛りかゝりたれば其鬚をとらへてこれを撃ちころせり

三六 僕は既に獅子と熊とを殺せり此割禮なきペリシテ人活る神の軍をいどみたれば亦かの獸の一のごとくなるべ

三七 し ダビデまたいひけるはエホバ我を獅子の爪と熊の爪より援ひいだしたまひたれば此ペリシテ人の手よりも

三八 援ひいだしたまはんとサウル、ダビデにいふ往けねがはくはエホバ汝とともにいませ 三九 是においてサウルおの

三九 れの戎衣をダビデに衣せ銅の盔を其首にかむらせ亦鱗綴の鎧をこれにきせたり 四〇 ダビデ戎衣のうへに劍を

佩て往かんことを試む未だ験せしことなければなりしかしてダビデ、サウルにいひけるは我いまだ験せしことな

四〇 ければ是を衣ては往くあたはずと 四一 ダビデこれを脱ぎすて手に杖をとり谿間より五の光滑なる石を拾ひて之を

其持てる牧羊者の具なる袋に容れ手に投石索を執りて彼ペリシテ人にちかづく

四二 ペリシテ人進みきてダビデに近づけり楯を執るもの其まへにあり 四三 ペリシテ人環視てダビデを見て之を

イ母前二七・二七 八申二〇・二一、三二 一 哥後一・一〇 上三三・二二、一六
口母前二七・二六、二二 二母前一六・一八 へ詩一八・一六、一七、 提後四・一七、一八 詩二三・三、四、哥
七 亦民一三・三一 申九 六三・七、七七、一 卜母前二〇・一三、代 前二・二七、二八
リ母前二六・一二 後三・八、九、八、
又母前二四・一四 母 一六・九 王下八、
一三

ル王上二〇・一〇、一 五 詩二二四・八、 三三、三四 三番四・二四 王上八 五二・一〇 王代下二〇・一五 母後三三二一 ナ母前二六・二二、二
一 一二五・一 哥後 王母前二七・一〇 四三、一八・三六 夕詩四四・六、七 何 ソ母前二一・九 士三 ツ來一一・三四 二
ヲ母後二二・三三、三 一〇・四 來一一・カ申二八・二六 王下一九・一九 賽 一・七 亞四・六 三二、一五・一五 季書一五・三六

藐視る其は少くして赤くまた美しき貌なればなり 四三 ペリシテ人ダビデにいひけるは汝杖を持てきたる我豈犬な

らんやとペリシテ人其神の名をもつてダビデを呪詛ふ 四四 しかしてペリシテ人ダビデにいひけるは我がもとに來

れ汝の肉を空の鳥と野の獸にあたへんと 四五 ダビデ、ペリシテ人にいひけるは汝は劍と槍と矛戟をもて我にきた

る然ど我は萬軍のエホバの名すなはち汝が搦みたるイスラエルの軍の神の名をもて汝にゆく 四六 今日エホバ汝を

わが手に付したまはんわれ汝をうちて汝の首級を取りペリシテ人の軍勢の尸體を今日空の鳥と地の野獸にあたへ

て全地をしてイスラエルに神あることをしらしめん 四七 且又この群衆みなエホバは救ふに劍と槍を用ひたまはざ

ることをしるにいたらん其は戰はエホバによれば汝らを我らの手にわたしたまはんと 四八 ペリシテ人すなはち

立あがり進みちかづきてダビデをむかへしかばダビデいそぎ陣にはせゆきてペリシテ人をむかふ 四九 ダビデ手を

囊にいれて其中より一つの石をとり投てペリシテ人の額を撃ければ石其額に突きいりて俯伏に地にたふれたり

かくダビデ投石素と石をもてペリシテ人にかちペリシテ人をうちて之をころせり然どダビデの手には劍な

かりしかば 五一 ダビデはしりてペリシテ人の上にのり其劍を取て之を鞘より抜きはなしこれをもて彼をころし

其首級を斬りたり爰にペリシテの人々其勇士の死るを見てにげしかば 五二 イスラエルとユダの人おこり喊呼をあ

げてペリシテ人をおひガテの入口およびエクロンの門にいたるペリシテ人の負傷人シヤライムの路に仆れてガテ

およびエクロンにおよぶ 五三 イスラエルの子孫ペリシテ人をおふてかへり其陣を掠む 五四 ダビデかのペリシテ人

の首を取りて之をエルサレムにたづさへきたりしが其甲冑はおのれの天幕におけり

五五 サウル、ダビデがペリシテ人にむかひて出るを見て軍長アブネルにいひけるはアブネル此少者はたれの子

なるやアブネルいひけるは王汝の靈魂は生くわれしらざるなり 王いひけるはこの少年はたれの子なるかを尋

ねよ ダビデかのペリシテ人を殺してかへれる時アブネルこれをひきて其ペリシテ人の首級を手にもてるまゝ

サウルのまへにつれゆきければ サウルかれにいひけるは若き人よ汝はたれの子なるやダビデこたへけるは

汝の僕ベテレヘム人エサイの子なり

第一八章

一 ダビデ、サウルにかたることを終しときヨナタンの心ダビデの心にむすびつきてヨナタンおのれの命のごとくダビデを愛せり 此日サウル、ダビデをかへて父の家にかへらしめず ヨナタ

ンおのれの命のごとくダビデを愛せしかばヨナタンとダビデ契約をむすべり ヨナタンおのれの衣たる明衣を

脱てダビデにあたふ其戎衣および其刀も弓も帯もまたしかせり ダビデは凡てサウルが遣はすところにい

ゆきて功をあらはしければサウルかれを兵隊の長となせりしかしてダビデ民の心にかなひ又サウルの僕の心にも

かなふ

六 衆人かへりきたれる時すなはちダビデ、ペリシテ人をころして還れる時婦女イスラエルの邑々よりいでき

たり譏と祝歌と磬をもちて歌ひまひつゝサウル王を迎ふ 婦人踊躍つゝ相こたへて歌ひけるはサウルは千を

うち殺しダビデは萬をうちころすと サウル甚だ怒りこの言をよるとばずしていひけるは萬をダビデに歸し

千をわれに歸す此上かれにあたふべき者は唯國のみと サウルこの日より後ダビデを目がけたり

一〇 次の日神より出たる悪鬼サウルにのぞみてサウル家のなかにて預言したりしかばダビデ故のごとく手を

もつて琴をひけり時にサウルの手に投槍ありければ サウル我ダビデを壁に刺とほさんといひて其投槍をさし

イ母前一七・五四	ニ申一三・六	母前	ホ母後一七・一五	ト出二五・二〇	士	リ母前二二・二二、二	ル母前一五・二八	上一八・二九	徒	ヨ母前一九・一〇、二
ロ母前一七・一二	一九・二、二〇、一	ヘ母前一八・二四、一	一	一一・三四	九・五	テ母前一六・二四	一六・二六	一六・二六	〇・三三、三二、二七、四	
ハ創四四・三〇	七	母後一・二六	五、三〇	チ出二五・二二	又傳四・四	ワ母前一九・二四	王	カ母前一九・九		

九 二九 母前二五・二
 一〇 二二 母後七・一八 一ケ 母前一八・一七
 一 八 二七 母前二一・八
 二 二七 母後二二・九
 三 二七 母前二一・八
 四 二七 母後二二・九
 五 二七 母前二一・八
 六 二七 母後二二・九
 七 二七 母前二一・八
 八 二七 母後二二・九
 九 二七 母前二一・八
 一〇 二七 母後二二・九
 一 二七 母前二一・八
 二 二七 母後二二・九
 三 二七 母前二一・八
 四 二七 母後二二・九
 五 二七 母前二一・八
 六 二七 母後二二・九
 七 二七 母前二一・八
 八 二七 母後二二・九
 九 二七 母前二一・八
 一〇 二七 母後二二・九

二 あげしがダビデ二度身をかはしてサウルをさけたり 二
 三 エホバ、サウルをはなれてダビデと共にいますによりて
 四 サウル彼をおそれたり 三 是故にサウル彼を遠ざけて千夫長となせりダビデすなはち民のまへに出入す 四 また
 五 ダビデすべて其ゆくところにて功をあらはし且エホバかれとともにいませり 五 サウル、ダビデが大に功をあら
 六 はすをみてこれを恐れたり 六 しかれどもイスラエルとユダの人はみなダビデを愛せり彼が其前に出入するに
 よりてなり

一七 サウル、ダビデにいひけるはわれわが長女メラブを汝に妻さん汝たどわがために勇みエホバの軍に戦ふ
 一八 べしと其はサウルわが手にてかれを殺さでペリシテ人の手にてころさんとおもひたればなり 一八 ダビデ、サウル
 一九 にいひけるは我は誰ぞわが命はなんぞわが父の家はイスラエルにおいて何なる者ぞや我いかでか王の婿となるべ
 二〇 けんとなし 然るにサウルの女子メラブはダビデに嫁ぐべき時におよびてメホラ人アデリエルに妻されたり 二〇

二 二 ウルの女ミカル、ダビデを愛す人これを王に告げればサウル其事を善しとせり 二 サウルいひけるは我ミカルを
 三 かれにあたへて彼を謀る手段となしペリシテ人の手にてかれを殺さんといひてサウル、ダビデにいひけるは汝
 四 今日ふたゝびわが婿となるべし

三 かくてサウル其僕に命じけるは汝ら密にダビデにかたりて言へ視よ王汝を悦び王の僕みな汝を愛すされば
 四 汝王の婿となるべしと 三 サウルの僕此言をダビデの耳に語りしかばダビデいひけるは王の婿となること汝ら

四 の目には易き事とみゆるや且われは貧しく賤しき者なりと 四 サウルの僕サウルにつけてダビデ是の如くかたれ

二五 りといへり 二五 サウルいひけるはなんぢらかくダビデにいへ王は聘禮を望まずたゞペリシテ人の陽皮一百をえて

二六 王の仇をむくいんことを望むと是はサウル、ダビデをペリシテ人の手に殞没しめんとおもへるなり 二六 サウルの

二七 僕此言をダビデにつげしかばダビデは王の婿となることを善とせり斯て其時いまだ満ざるあひだに 二七 ダビデ

起て其従者とともにゆきペリシテ人二百人をころして其陽皮をたづさへきたり之を悉く王にさゝげて王の婿と

二八 ならんとすサウル乃はち其女ミカルをダビデに妻せたり 二八 サウル見てエホバのダビデとともにいますを知りぬ

二九 またサウルの女ミカルはダビデを愛せり 二九 サウルさらにますますダビデを恐れサウル一生のあひだダビデの敵

となれり 三〇 爰にペリシテ人の諸伯攻きたりしがダビデかれらが攻めきたるごとにサウルの諸の臣僕よりは多の功を

たてしかば其名はなはだ尊まる 一 サウル其子ヨナタンおよび諸の臣僕にダビデをころさんとすることを語れり 二 されどサウルの

第一九章

子ヨナタン深くダビデを愛せしかばヨナタン、ダビデにつげていひけるはわが父サウル汝をころさ

んことを求むこのゆゑに今ねがはくは汝翌朝謹格で潜みをりて身を隠せ 三 我いでゆきて汝がをる野にてわが

父の傍にたちわが父とともに汝の事を談はんしかして我其事の如何なるを見て汝に告ぐべし 四 ヨナタン其父

サウルに向ひダビデを褒揚ていひけるは願くは王其僕ダビデにむかひて罪をかすなかれ彼は汝に罪をかさず

また彼が汝になす行爲ははなはだ善し 五 またかれは生命をかけてかのペリシテ人をころしたりしかしてエホバ、

イスラエルの人々のためにおほいなる救をほどこしたまふ汝見てよるこべりしかるに何ぞゆゑなくしてダビデを

イ 例三四・二二	出 八母前一八・二七	ハ 母前一八・二七	ヘ 母後三・一四	リ 母前二六・二一	王 又 母前一八・一	三 五・二二、一〇九	ワ 士九・一七、一一、	カ 母前一七・四九、五
二二・二七	二 母前一八・二一	ト 母後二一・一	下 一・二三	詩 一	ル 彼三一・八、九	・ 五 彼一七・二三	三 祖前二八・二一	〇
口 母前一四・二四	ホ 母前一八・二三	チ 母前一八・五	六・一五	詩	テ 創四二・二三	耶 一八・二〇	詩 一一九・一〇九	ヨ 祖前一・二三、代

六 ころし無辜者の血をながして罪をかさんとするや サウル、ヨナタンの言を聴いれサウル誓ひけるはエホバ

七 はいくわれかならずかれをころさじ ヨナタン、ダビデをよびてヨナタン其事をみなダビデにつげ遂にダビデ

をサウルの許につれきたりければダビデさきのごとくサウルの前にをる

八 爰に再び戦争おこりぬダビデすなはちいでてペリシテ人とたゝかひ大にかれらを殺せしかばかれら其まへ

九 を逃げされり サウル手に投槍を執て室に坐する時エホバより出たる悪鬼これにのりうつれり其時ダビデ乃ち

一〇 手をもて琴を弾く サウル投槍をもてダビデを壁に刺とほさんとしたりしがダビデ、サウルのまへを避ければ

二 投槍を壁に衝たてたりダビデ其夜逃さりぬ サウル使者をダビデの家につかはしてかれを守らしめ朝におよび

三 てかれをころさしめんとすダビデの妻ミカル、ダビデにつげていひけるは若し今夜爾の命を援ずば明朝汝は殺

三二 されんと ミカル即ち牖よりダビデを縋おろしければ往て逃されり 斯てミカル像をとりて其牀に置き山羊

一四 の毛の編物を其頭におき衣服をもて之をおほへり サウル、ダビデを執ふる使者をつかはしければミカルいふ

一五 かれは疾ありと サウル使者をつかはしダビデを見させんとていひけるはかれを牀のまゝ我にたづさへきたれ

一六 我これをころさん 使者いりて見たるに牀には像ありて其頭に山羊の毛の編物ありき サウル、ミカルにい

ひけるはなんぞかく我をあざむきてわが敵を逃しやりしやミカル、サウルにこたへけるは彼我にいへり我をはな

ちてさらしめよ然らずば我汝をころさんと

一八 ダビデにけさりてラマにゆきサムエルの許にいたりてサウルがおのれになせしことをことごとくつげたり

一九 しかしてダビデとサムエルはゆきてナヨテにすめり サウルに告る者ありていふ視よダビデはラマのナヨテに

二〇 をると 二〇 サウル乃ちダビデを執ふる使者をつかはせしが彼等預言者の一群の預言しをりてサムエルが其中の長
 二一 となりて立てるを見るにおよび神の靈サウルの使者にのぞみて彼等もまた預言せり 二二 人々これを告げればサウ
 二三 ル他の使者を遣しけるにかれらも亦預言せしかばサウルまた三度使者を遣はしけるが彼等もまた預言せり 二四 是
 二五 においてサウルもまたラマにゆきけるがセクの大井にいたれる時間ていひけるはサムエルとダビデは何處にをる
 二六 や答ていふラマのナヨテにをる 二七 サウルかしこにゆきてラマのナヨテに至りけるに神の靈また彼にのぞみて彼
 二八 ラマのナヨテにいたるまで歩きつゝ預言せり 二九 彼もまた其衣服をぬぎすて同くサムエルのまへに預言し其一日
 二九 一夜裸體にて仆臥たり是故に人々サウルもまた預言者のうちにあるかといふ

第二〇章

一 ダビデ、ラマのナヨテより逃きたりてヨナタンにいひけるは我何をなし何のあしき事あり汝の父
 二 のまへに何の罪を得てか彼わが命を求むる 三 ヨナタンかれにいひけるは汝決して殺さるゝことあら
 四 じ視よわが父は事の大なるも小なるも我につげずしてなすことなしわが父なんぞこの事を我にかくさんやこの事
 五 しからず 六 ダビデまた誓ひていひけるは汝の父必ずわが汝のまへに恩恵をうるを知る是をもてかれ思へらく

三 恐らくはヨナタン悲むべければこの事をかれにしらしむべからずとしかれどもエホバはいくまたなんぢの靈魂は
 四 いくわれは死をさること只一步のみ 五 ヨナタン、ダビデにいひけるはなんぢの心なにをねがふか我爾のために
 六 之をなさんと 七 ダビデ、ヨナタンにいひけるは明日は月朔なれば我王とともに食につかざるべからず然ども
 八 我をゆるして去らしめ三日の晩まで野に隠るゝことをえさしめよ 九 若汝の父まことに我をもとめなば其時言へ
 九 ダビデ切に其邑ベテレヘムにはせゆかんことを我に請り其は彼處に全家の歳祭あればなりと 一〇 彼もし善しとい

イ約七・三二、三四 二五 二母前一〇・一〇 一四・二〇 母前二〇・二二、九 一母前九・二二
 母前一〇・五、六、八 一母前二五耳三 一母前二〇・二 一母前二四・四 一母前一九・二 一母前一七・四
 前一四・三、二四、二八 二八 一母前一〇・一一 一母前二〇・二〇、二八 一母前二六・四 一母前一七・四

ヨ母前二五・一七 帖 八・三、二三・一八 ツ母前二〇・二
七・七 レ替二・一四 一得一・一七 二一・二六 代上二二
タ母前二〇・一六、一 ソ母後一四・三二 ナ書一・五 母前一七 ラ母後九・一、三、七、 前三一・二 母後四 井母前二〇・五

ハ はゞ僕やすからんされど彼もし甚しく怒らば彼の害をくはへんと決しを知れ 汝エホバのまへに僕と契約を

むすびたれば願くは僕に恩をほどこせ然ど若我に悪き事あらば汝自ら我をころせ何ぞ我を汝の父に引ゆくべけ

九 んや ヨナタンいひけるは斯る事かならず汝にあらざれ我わが父の害を汝にくはへんと決るをしらば必ず之を

一〇 汝につげん 一〇 ダビデ、ヨナタンにいひけるは若し汝の父荒々しく汝にこたふる時は誰か其事を我に告ぐべきや

二 ヨナタン、ダビデにいひけるは來れ我ら野にいでゆかんと俱に野にいでゆけり

二三 しかしてヨナタン、ダビデにいひけるはイスラエルの神エホバよ明日か明後日の今ごろ我わが父を窺ひて

事のダビデのために善きを見ながら人を汝に遣はして告しらすばエホバ、ヨナタンに斯なしました重て斯くなし

一三 たまへ 一三 されど若しわが父汝に害をくはへんと欲せば我これを告げしらせて汝をにがし汝を安らかにさらしめ

一四 ん願くはエホバわが父とともに坐せしごとく汝とともにいませ 一四 汝只わが生るあひだエホバの恩を我にしめし

一五 て死ざらしむるのみならず 一五 エホバがダビデの敵を悉く地の表より絶ちさりたまふ時にもまた汝わが家を永く

一六 汝の恩にはなれしむるなかれ 一六 かくヨナタン、ダビデの家と契約をむすぶエホバ之に關てダビデの敵を討し

たまへり

一七 しかしてヨナタンふたゝびダビデに誓はしむかれを愛すればなり即ちおのれの生命を愛することく彼を愛

一八 せり 一八 またヨナタン、ダビデにいひけるは明日は月朔なるが汝の座空かるべければ汝求めらるべし 一九 汝三日

二〇 とどまりて速かに下り嘗てかの事の日に隠れたるところに至りてエゼルの石の傍に居るべし 二〇 我的を射ること

二一 くして其石の側に三本の矢をはなたん 二一 しかしてゆきて矢をたづねよといひて童子をつかはすべし我もし故に

童子に視よ矢は汝の此旁にあり其を取と曰ばなんぢきたるべしエホバは生く汝安くして何もなかるべければなり

三三 されど若し我少年に視よ矢は汝の彼旁にありといはゞ汝さるべしエホバ汝をさらしめたまふなり 汝と我

とかたれることについては願はくはエホバ恒に汝と我との間にいませと

二四 ダビデ即ち野にかくれぬ楮月朔になりければ王坐して食に就く 即ち王は常のごとく壁によりて座を占

二六 むヨナタン立あがりアブネル、サウルの側に坐すダビデの座はむなし されど其日にはサウル何をも曰ざりき其

二七 は何事か彼におこりしならん彼きよからず定て潔からずと思ひたればなり 明日すなはち月の二日におよびて

二八 ダビデの座なほ虚しサウル其子ヨナタンにいひけるは何ゆゑにエサイの子は昨日も今日も食に來らざるや

二九 ナタン、サウルにこたへけるはダビデ切にベテレヘムにゆかんことを我にこひて曰けるは ねがはくは我を

ゆるしてゆかしめよわが家邑にて祭をなすによりわが兄我にきたることを命ぜり故に我もし汝のまへにめぐみを

えたるならばねがはくは我をゆるして去しめ兄弟をみることを得さしめよと是故にかれは王の席に來らざるなり

三〇 サウル、ヨナタンにむかひて怒りを發しかれにいひけるは汝は曲り且悖れる婦の子なり我あに汝がエサイ

三二 の子を簡みて汝の身をはづかしめまた汝の母の膚を辱しむることを知ざらんや エサイの子の此世にながらふ

三三 るあひだは汝と汝の位固くたつを得ず是故に今人をつかはして彼をわが許に引きたれ彼は死ぬべき者なり

三三 ナタン父サウルに對へていひけるは彼なによりて殺さるべきか何をなしたるやと ことにおいてサウル、ヨ

三四 ナタンを撃んとて投槍をさしあげたりヨナタンすなはち其父のダビデを殺さんと決しをしれり かくてヨナタ

三三 ン烈しく怒りて席を立ち月の二日には食をなさざりき其は其父のダビデをはづかしめしによりてダビデのために

イ耶四・二 八利七・二二、一五・五 二三路二三・二二 又母前二四・三 可二 ヲ出一九・一五 耶七 二四・五太一二・四 夕太一二・三、四 可
口母前二〇・二四、一 二母前二〇・六 へ母前一八・一一 二母前二〇・二七 又母前二四・三 可二 ヲ出一九・一五 耶七 二四・五太一二・四 夕太一二・三、四 可
五、四二 五母前一九・五太二七 二母前二〇・七 二母前二〇・二七 又母前二四・三 可二 ヲ出一九・一五 耶七 二四・五太一二・四 夕太一二・三、四 可
ル母前一六・四 二出二五・三〇 利 三利八・二六 六・三、四

憂へたればなり

三五 翌朝ヨナタン一童子を従がへダビデと約せし時刻に野にいひけるは走りて我はなつ矢

三七 をたづねよと童子はしる時ヨナタン矢を彼のさき三六に發てり 童子がヨナタンの發ちたる矢のところにいたれる

三八 時ヨナタン童子のうしろに呼はりていふ矢は汝のさきにあるにあらずや ヨナタンまた童子のうしろによばは

三九 りていひけるは速かにせよ急げ止まるなかれとヨナタンの童子矢をひろひあつめて其主人のもとにかへる

四〇 れど童子は何をも知ざりき只ヨナタンとダビデ其事をしりたるのみ かくてヨナタン其武器を童子に授ていひ

四一 けるは往けこれを邑に携へよと 童子すなはち往けり時にダビデ石の傍より立ちあがり地にふして三たび拜せ

四二 りしかしてふたり互に接吻してたがひに哭くダビデ殊にはなはだし ヨナタン、ダビデにいひけるは安じて

往け我ら二人ともにエホバの名に誓ひて願くはエホバ恒に我と汝のあひだに坐し我が子孫と汝の子孫のあひだに

いませといへりとダビデすなはちたちて去るヨナタン邑にいりぬ

第二一章

一 ダビデ、ノブにゆきて祭司アヒメレクにいたるアヒメレク懼れてダビデを迎へこれにいひけるは

二 汝なんぞ獨にして誰も汝ともならざるや ダビデ祭司アヒメレクにいふ王我に一の事を命じて

三 我にいふ我が汝を遣はすところの事およびわが汝に命じたる所については何を人も人にしらするなかれと我某處

四 我少者を出おけり いま何か汝の手にあるや我手に五のパンか或はなににてもある所を與よ 祭司ダビデ

五 に對ていひけるは常のパンはわが手になされど若し少者婦女をだに愼みてありしならば聖きパンあるなりと

六 ダビデ祭司に對ていひけるは實にわがいでしより此三日は婦女われらにちかづかず且少者等の器は潔し又パ
ンは常の物のごとし今日器に潔きパンあれば殊に然と 祭司かれに聖きパンを與たり其はかしこに供前のパン

の外はパン无りければなり即ち其パンは下る日に熱きパンをさへげんとて之をエホバのまへより取されるなり

其日かしこにサウルの僕一人留められてエホバのまへにあり其名をドエグといふエドミ人にしてサウルの

牧者の長なり ダビデまたアヒメレクにいふ此に汝の手に槍か劍あらぬか王の事急なるによりて我は刀も武器

も携へざりしと 祭司いひけるは汝がエラの谷にて殺したるペリシテ人ゴリアテの劍布に裹みてエポデの後に

あり汝もし之をとらんとおもはゞ取れ此にはほかの劍なしダビデいひけるはそれにまさるものなし我にあたへ

よと

二〇 ダビデ其日サウルをおそれて立てガテの王アキシのところ逃げゆきぬ アキシの臣僕アキシに曰ける

は此は其地の王ダビデにあらずや人々舞蹈のうちこの人のことを歌ひあひてサウルは干をうちころしダビデは

萬をうちころすといひしにあらずや ダビデこの言を心に藏め深くガテの王アキシをおそれ 人々のまへに

て伴て其氣を變じ執はれて狂人のさまをなし門の扉に畫き其涎沫を鬚にながれくらしむ アキシ僕に云ける

は汝らの見るごとく此人は狂人なり何ぞかれを我にひき來るや 我なんぞ狂人を須ひんや汝ら此者を引きたり

てわがまへに狂しめんとするや此者なんぞ吾が家にいるべけんや

第二二章 是故にダビデ其處をいでたちてアドラムの洞穴にのがる其兄弟および父の家みな聞きおよびて 彼處にくだり彼の許に至る また惱める人負債者心に嫌ぬ者皆かれの許にあつまりて彼其

長となれりかれとともにある者はおよそ四百人なり

ダビデ其處よりモアブのミツバにいたりモアブの王にいひけるは神の我をいかどなしたまふかを知るまで

イ利二四・八・九 二母前二二・九 詩 五二・ 五
ハ母前一七・二・五〇 へ詩五六・ 五
ト母前二一・八・七、二九 又母後二三・一三
ル詩五七、一四三
チ路二・一九 又母後二三・一三
リ詩三四・ 五
ヲ士一一・三

ワ母後二四・二一代カ母前八・二四
上二一・九 代下ヨ母前一八・三、二〇
二九二五
タ母前二〇・二一
レ母前二一・七 詩ソ母前一四・三
五二・ 母前二二・
ツ母前二一・一
キ民二七・二一
ナ母前二一・六、九、

四 ねがはくはわが父母をして出て汝らとともにをらしめよと 遂にかれらをモアブの王のまへにつれきたるかれ

五 らはダビデが要害にをる間王とともにありき 預言者ガデ、ダビデに云けるは要害に住るなかれゆきてユダの

地にいたれとダビデゆきてハレテの叢林にいたる

六 爰にサウル、ダビデおよびかれともなる人々の見露されしを聞けり時にサウルはギベアにあり手に槍を

七 執て岡巒の柳の樹の下にをり臣僕ども皆其傍にたてり サウル側にたてる僕にいひけるは汝らベニヤミン人

八 聞けよエサイの子汝らおのおのに田と葡萄園をあたへ汝らおのおのを干夫長百夫長となすことあらんや

九 わがために憂へずわが子が今日のごとくわが僕をはげまして道に伏て我をおそはしめんとするを我につげしらす

一〇 者なし 時にエドミ人ドエグ、サウルの僕の中にたち居りしが答へていひけるは我エサイの子のノブにゆきて

一〇 アヒトブの子アヒメレクに至るを見しが アヒメレクかれのためにエホバに問ひまたかれに食物をあたへべり

一〇 シテ人ゴリアテの剣をあたへたりと

二 王すなはち人をつかはしてアヒトブの子祭司アヒメレクおよびその父の家すなはちノブの祭司たる人々を

三 召したればみな王の許にきたる サウルいひけるは汝アヒトブの子聽よ答へけるは主よ我こゝにあり サウ

ルかれにいふ汝なんぞエサイの子とともに我に敵して謀り汝かれにパンと剣をあたへ彼が爲に神に問ひかれをし

四 て今日のごとく道に伏て我をおそはしめんとするや アヒメレク王にこたへていひけるは汝の臣僕のうち誰か

五 ダビデのごとく忠義なる彼は王の婿にして親しく汝に見ゆるもの汝の家に尊まるゝ者にあらずや 我其時かれ

のために神に問ことを始めしや決してしからずねがはくは王僕およびわが父の全家に何をも歸するなかれ其は僕こ

の事については多少をいはず何をもしらざればなり 王いひけるはアヒメレク汝必ず死ぬべし汝の父の全家

もしかりと 王旁にたてる前驅の人々にいひけるは身をひるがへしてエホバの祭司を殺せかれらもダビデと

力を合するが故またかれらダビデの逃たるをしりて我に告ざりし故なりと然ど王の僕手をいだしてエホバの祭司

を撃ことを好まざれば 王ドエグにいふ汝身をひるがへして祭司をころせとエドミ人ドエグ乃ち身をひるがへ

して祭司をうち其日布のエポデを衣たる者八十五人をころせり かれまた刃を以て祭司の邑ノブを撃ち刃をも

て男女童稚嬰孩牛驢馬羊を殺せり

アヒトブの子アヒメレクの一人の子アビヤタルとなづくる者逃れてダビデにはしり従がふ アビヤタル、

サウルがエホバの祭司を殺したることをダビデに告しかば ダビデ、アビヤタルにいふかの日エドミ人ドエグ

彼處にをりしかば我かれが必らずサウルにつげんことを知れり我汝の父の家の人々の生命を喪へる源由となれり

汝我とともに居れ懼るゝなかれわが生命を求むる者汝の生命をも求むるなり 汝我とともにあらば安全なる

べし

第二十三章

人々ダビデにつけていひけるは視よペリシテ人ケイラを攻め穀場を掠むと 問ていひけるは我ゆきて是のペリシテ人を撃つべきかとエホバ、ダビデにいひたまひけるは往て

ペリシテ人をうちてケイラを救へ 問ていひけるは我ゆきて是のペリシテ人を撃つべきかとエホバ、ダビデにいひたまひけるは往て

況やケイラにゆきてペリシテ人の軍にあたるをやと 問ていひけるは我ゆきて是のペリシテ人を撃つべきかとエホバ、ダビデにいひたまひけるは往て

イ出二・一七 二母前二三・六 ト書一五・四四 一九・二三 又民二七・二二 母前 三母前三三・二、二五 カ詩一・一、二
口母前二・三三 ホ母前二・三三 三母前二三・四、六、九 三〇・七 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五
ハ母前三三・九、一一 へ王上三・二六 三〇・八 母後五・ 三母前三三・二〇 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五
ル母前三三・一九 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五
ワ書一五・五五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五
タ母前二四・二〇 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五
レ母前一八・三、二〇 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五
一六・四二 母後 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五 三母前三三・二、二五

四 ひけるは起てケイラにくだれ我ペリシテ人を汝の手にわたすべし 五 ダビデとその従者ケイラにゆきてペリシテ
 六 人とたゝかひ彼らの家畜を奪ひとり大にかれらをうちころせりかくダビデ、ケイラの居民をすくふ 六 アヒメレ
 クの子アビヤタル、ケイラにのがれてダビデにいたれる時其手にエポデを執てくだれり
 七 爰にダビデのケイラに至れる事サウルに聞えければサウルいふ神かれを我手にわたしたまへり其はかれ門
 八 あり關ある邑にいりたれば閉こめらるればなり 八 サウルすなはち民をことごとく軍によびあつめてケイラにく
 九 だりてダビデと其従者を圍んとす 九 ダビデはサウルのおのれを害せんと謀るを知りて祭司アビヤタルにいひけ
 一〇 るはエポデを持ちきたれと 一〇 しかしてダビデいひけるはイスラエルの神エホバよ僕たしかにサウルがケイラに
 二 きたりてわがために此邑をほろぼさんと求むるを聞き 二 ケイラの人々我をかれの手にわたすならんか僕のきけ
 るごとくサウル下るならんかイスラエルの神エホバよ請ふ僕につげたまへとエホバいひたまひけるは彼下るべし
 三 と 三 ダビデいひけるはケイラの人々われとわが従者をサウルの手にわたすならんかエホバいひたまひけるは
 三 彼らわたすべし 三 是においてダビデと其六百人はかりの従者起てケイラをいで其ゆきうる所にゆけりダビデの
 四 ケイラをにげはなれしことサウルに聞えければサウルいづることを止たり 四 ダビデは曠野にをり要害の地にを
 りまたジフの野にある山に居るサウル恒にかれを尋ねたれども神かれを其手にわたしたまはざりき
 五 一五 ダビデ、サウルがおのれの生命を求めんために出たるを見る時にダビデはジフの野の叢林にをりしが
 一六 一六 サウルの子ヨナタンたちて叢林にいりてダビデにいたり神によりて其力を強うせしめたり 一七 即ちヨナタン
 一七 一七 かくれにいひけるは懼るゝなかれわが父サウルの手汝にとどくことあらし汝はイスラエルの王とならん我は汝の次
 一八 一八 なるべし此事はわが父サウルもしれりと 一八 かくて彼ら二人エホバのまへに契約をむすびダビデは叢林にとどま

りヨナタンは其家にかへれり

一九 時にジフ人ギベアにのぼりサウルの許にいたりていひけるはダビデは曠野の南にあるハキラの山の叢林の

二〇 中なる要害に隠れて我らとともにをるにあらずや 今王汝のくだらんとする望のごとく下りたまへ我らはかれ

二二 王の手をわたさんと サウルいひけるは汝ら我をあはれめば願くは汝等エホバより福祉をえよ 請ふゆき

二三 尙ほ心を用ひ彼の踪跡ある處と誰がかれを見たるかを見きはめよ其は人我にかれが甚だ機巧く事を爲すを告

二四 其地にあらば我ユダの郡中をあまねく尋ねて彼を獲んと

二五 斯てサウルと其従者ゆきて彼を尋ぬ人々これをダビデに告げればダビデ巖を下てマオンの野にをるサウル之

二六 を聞てマオンの野に至てダビデを追ふ サウルは山の此旁に行ダビデと其従者は山の彼旁に行ダビデは周章て

二七 サウルの前を避んとしサウルと其従者はダビデと其従者を圍んで之を取んとす 時に使者サウルに來て言ける

二八 はペリシテ人國ををかす急ぎきたりたまへと 故にサウル、ダビデを追ことを止てかへり往てペリシテ人にあ

二九 たるこゝをもて人々その處をセラマレコテ(逃岩)となづく ダビデ其處よりのぼりてエンゲデの要害にをる

一 サウル、ペリシテ人を追ふことをやめて還りし時人々かれにつけていひけるは視よダビデはエン

二 ゲデの野にありと サウル、イスラエルの中より選みたる三千の人を率ゐゆきて野羊の巖にダビ

三 デと其従者を尋ぬ 途にて羊の棧にいたるに其處に洞穴ありサウル其足を掩んとていりぬ時にダビデと其従者

第二十四章

イ母前二六・一詩 八書一五・五五 母前 詩一七・九 母前二二・二八 母前 詩一七・九
五四・ 二五・二 へ王下一九・九 母前 詩三八・二二 母前 詩三八・二二
口詩五四・三 二詩三一・二二 卜代下二〇・二 又詩一四一・六 母前 詩三七・一四二・三

一六 ダビデこれらの言をサウルに語りをへしときサウルいひけるはわが子ダビデよ是は汝の聲なるかとサウル
 一七 聲をあげて哭きぬ 一七 しかしてダビデにいひけるは汝は我よりも正し我は汝に惡をむくゆるに汝は我に善をむく
 一八 ゆ 汝今日いかに汝が我に善くなすかを明かにせりエホバ我を爾の手にわたしたまひしに爾我をころさざりし
 一九 なり 人もし其敵にあはゞこれを安らかに去しむべけんや爾が今日我になしたる事のためにエホバ爾に善を
 二〇 むくいたまふべし 二〇 視よ我爾が必ず王とならんことを知りまたイスラエルの王國の爾の手によりて堅くたゝん
 二一 ことをしる 二一 今爾エホバをさして我にわが後にてわが子孫を斷ずわが名をわが父の家に滅せざらんことを誓へ
 二三 と 三三 ダビデすなはちサウルにちかふ是においてサウルは家にかへりダビデと其從者は要害にのぼれり
 一 爰にサムエル死にしかばイスラエル人皆あつまりて之をかなしみラマにあるその家にてこれを葬
 二 むれりダビデたちてバランの野にくだる

第二十五章

一 マオンに一箇の人あり其所有はカルメルにあり其人甚だ大なる者にして三千の羊と一千の山羊をもちしが
 二 カルメルにて羊の毛を剪り居たり 三人の名はナバルといひ其妻の名はアビガルといふアビガルは賢く顔美き
 三 婦なりされど其夫は剛愎にして其爲すところ惡かりきかれはカレブの人なり 四 ダビデ野にありてナバルが其羊
 四 の毛を剪りをるを聞き 五 ダビデ十人の少者を遣はすダビデ其少者にいひけるはカルメルにのぼりナバルにいた
 六 りわが名をもてかれに安否をとひ 六 かくのごとくいへ願くは壽ながかれ爾平安なれ爾の家やすらかなれ爾が有
 七 ところの物みなやすらかなれ 七 我爾が羊毛を剪せをるを聞き爾の牧羊者は我らとともにありしが我らこれを
 八 害せざりきまたかれらがカルメルにありしあひだかれらの物何も失たることなし 八 爾の少者に問へかれら爾に

イ母前二六・一七 二太五・四四 二六・八 三民二〇・二九 申 一三〇・五 夕創三八・二三 母後ソ代上一二・一八 詩
 ロ母前二六・二一 ホ母前二六・二三 ト母前二三・一七 又母前二三・二九 三四・八 一三三・三三 母後ソ代上一二・一八 詩
 ハ創三八・二六 へ母前二三・二二、 七母後二一・六、八 ル母前二八・三 ワ創二一・二一 詩 三卷一五・五五 一三三・七 路一〇
 五

ネ八・二〇 帖九
一七、八、一三三、三、
ム母前三〇・二四
ウ母前二五・七
ノ母前二〇・七
ク創三二・一三 歳
ヤ創三二・一六、二〇
ナ士九・二八 詩七三
ラ士八・六
井田一四・二二 伯一
オ申一三・一三 士
一八・一六、二一

つげん願くは少者をして爾のまへに恩をえせしめよ我ら吉日に来る請ふ爾の手にあるところの物を爾の僕らおよび爾の子ダビデにあたへよ

一〇九 ダビデの少者いたりダビデの名をもつて是らのことばの如くナバルに語りてやめり ナバル、ダビデの

二 僕にこたへていひけるはダビデは誰なるエサイの子は誰なる此頃は主人をすてゝ遁逃るゝ僕おほし 我あに

わがパンと水およびわが羊毛をきる者のために殺したる肉をとりて何處よりか知れざるところの人々にあたふべ

二三 けんや ダビデの少者ふりかへりて其道に就き歸りきたりて此等の言のごとくダビデに告ぐ 是においてダ

ビデ其從者に爾らのおの劍を帶よと言ければ各劍をおぶダビデもまた劍をおぶ而して四百人ばかりダビデに

したがひて上り二百人は輜重のところ止れり

一四 時にひとり少者ナバルの妻アビガルに告ていひけるは視よダビデ野より使者をおくりて我らの主人を

一五 祝したるに主人かれらを罵れり されどかの人々はわれらに甚だ善くなし我らは害をかうむらず亦われら野に

一六 ありし時かれらとともにをるあひだはなにをも失なはざりき 我らが羊をかひて彼らとともにありしあひだ

一七 彼らは日夜われらの墻となれり されば爾今しりてなにをなさんかを考ふべし其はわれらの主人および主人の

全家に定めて害きたるべければなり主人は邪魔なる者にして語ることをえずと

一八 アビガルいそぎパン二百 酒の革囊二 既に調へたる羊五 烘麥五セア 乾葡萄百球 乾無花果の團塊二百

一九 を取て驢馬にのせ 其少者にいひけるは我先に進め視よ我爾らの後にゆくと然ど其夫ナバルには告げざりき

二〇 アビガル驢馬にのりて山の僻處にくだれる時視よダビデと其從者かれにむかひてくだりければかれ其人々に

カ母前二四・二一 夕前二四・二七 出 路一・六八
ヨ耶一〇・一八 一八・一〇 詩四一 母前二五・二六
・二二、七二・一八 ソ母前二五・二六
ツ母前二五・二二 一九 略七・五〇、ラ母後一三・二二
母前二〇・四二 母 八・四八 ム母前二五・三二
後一五・九 王下五 ナ創一九・二一 ウ後二二・三三
ノ王上二・四四 詩七 才得二・一〇、一三 歳
一五・三三

ねがはくは婢を憶たまへ

三三 ダビデ、アビガルにいふ今日汝をつかはして我をむかへしめたまふイスラエルの神エホバは頌美べきかな

三三 また汝の智慧はほむべきかな又汝はほむべきかな汝今日わがきたりて血をながし自ら仇をむくゆるを止め

三三 たり わが汝を害するを阻めたまひしイスラエルの神エホバは生く誠にもし汝いそぎて我を來り迎はずば必ず

三三 翌朝までにナバルの所にひとりの男ものこらざりしならんと ダビデ、アビガルの携へきたりし物を其手より

受てかれにいひけるは安かに汝の家にへりのほれ視よわれ汝の言をきゝいれて汝の顔を立たり

三六 かくてアビガル、ナバルにいたりて視にかれは家に酒宴を設け居たり王の酒宴のごとしナバルの心これが

三七 ために樂みて甚だしく酔たればアビガル多少をいはず何をも翌朝までかれにつげざりき 朝にいたりナバルの

三八 酒のさめたる時妻かれに是等の事をつげたるに彼の心そのうちに死て其身石のごとくなりぬ 十日ばかりあり

三九 てエホバ、ナバルを撃ちたまひければ死り

三九 ダビデ、ナバルの死たるを聞いていひけるはエホバは頌美べきかなエホバわが蒙むりたる恥辱の訟を理して

ナバルにむくい僕を阻めて悪をおこなはざらしめたまふ其はエホバ、ナバルの悪を其首に歸し賜へばなりと爰に

四〇 ダビデ、アビガルを妻にめとらんとて人を遣はしてこれとかたらはしむ ダビデの僕カルメルにをるアビガル

四一 の許にいたりてこれにかたりいひけるはダビデ汝を妻にめとらんとて我らを汝に遣はすと アビガルたちて地

四二 にふして拜しいひけるは視よ婢はわが主の僕等の足を洗ふ仕女なりと アビガルいそぎたちて驢馬に乗り五人

の侍女とともにダビデの使者にしたがひゆきてダビデの妻となる

四三

四三 ダビデまたエズレルのアヒノアムを娶り彼ら二人ダビデの妻となる

四三 但しサウルはダビデの妻なりし

四三 其女ミカルをガリムの人なるライシの子バルテにあたへたり

第二十六章

一 ジフ人ギベアにきたりサウルの許にいたりていひけるはダビデは曠野のまへなるハキラの山に
 二 かくれをるにあらずやと サウルすなはち起ちジフの野にダビデを尋ねんとイスラエルの中より
 三 選びたる三千の人をしたがへてジフの野にくだる サウルは曠野のまへなるハキラの山において路のほとりに
 四 陣を取るダビデは曠野に居てサウルのおのれをおふて曠野にきたるをさとりければ ダビデ斥候を出してサウ
 五 ルの誠に来しをしれり こゝにおいてダビデたちてサウルの陣をとれるところにいたりサウルおよび其軍の長
 六 ネルの子アブネルの寢たるところを見たりすなはちサウルは車營の中に寝ぬ民其まはりに陣をはれり
 七 ダビデ答へてへテ人アヒメレクおよびゼルヤの子にしてヨアブの兄弟なるアビシヤイにいひけるは誰か我
 八 とともにサウルの陣にくだらんかとアビシヤイいふ我汝とともに下らん ダビデとアビシヤイすなはち夜に
 九 いりて民の所にいたるに視よサウルは車營のうちに寝臥し其槍地にさして枕邊にありアブネルと民は其まはりに
 一〇 寢たり アビシヤイ、ダビデにいひけるは神今日爾の敵を爾の手にわたしたまふ請ふいま我に槍をもてかれを
 一一 一度地にさしとほさしめよ再びするにおよばじ ダビデ、アビシヤイにいふ彼をころすなかれ誰かエホバの膏
 一二 そゝぎし者に敵して其手をのべて罪なからんや ダビデまたいひけるはエホバは生くエホバかれを撃たまはん
 一三 あるひはその死ぬる日來らんあるひは戦ひにくだりて死うせん わがエホバのあぶらそゝぎしものに敵して手
 一四 をのぶることはきはめて善らずエホバ禁じたまふされどいま請ふ爾そのまくらもとの槍と水の瓶をとれしかして

イ 卷一五・五六	ハ 母後三・一四	へ 母前二・一九 詩 七・五五	又 士七・一〇、一一	母後一・二六	路一八・七 羅二二	三一・一四 伯七・
ロ 母前二七・三三、三〇	ニ 卷一〇・三三〇	五 五・	ル 母前二四・一八	マ 母前二五・三八 詩 二・一九	カ 創四七・二九 申 三三・一二	一、一四・五 詩 三三・一二
ホ 母後三・一五	ト 母前一四・五〇、一	リ 代上三・二六	ヲ 母前三四・六、七	九 四・一、二、三 三 九 九・一、二、三	カ 創七・二九 申 三三・一二	三 三・一三

ヨ母前三一・六
夕母前二四・六、一二
レ創二・二一、一五・
一・二
ツ母前二四・二六
ナ母後一六・二一、二
四・一
リ創八・二一 利三六
ム申四・二八 詩二二
〇・五
ウ母後一四・二六、二
ノ母前一五・二四、二
四・二七
オ母前一八・三〇

二三 我らさりゆかんと 二三 ダビデ、サウルの枕邊より槍と水の瓶を取りてかれらさりゆきしが誰も見ず誰もしらず

誰も目を醒さざりき其はかれら皆眠り居たればなり即ちエホバかれらをふかく睡らしめたまふ

二三 かくてダビデは彼旁にわたりて遙に山の頂にたてり彼と此とのへだたり大なり 二四 ダビデ民とネルの子

二五 アブネルによばはりいひけるはアブネルよ爾こたへざるかアブネルこたへていふ王をよぶ爾はたれなるや 二五

二六 ビデ、アブネルにいひけるは爾は勇士ならずやイスラエルの中にて誰か爾に如ものあらんしかるに爾なんぞ爾の

二六 主なる王をまもらざるや民のひとり爾の主なる王を殺さんとていりぬ 一六 爾がなせる此事よからずエホバは生く

なんぢらの罪死にあたり爾らエホバの膏そゝぎし爾らの主をまもらざればなり今王の槍と王の枕邊にありし

水の瓶はいづくにあるかを見よ

二七 サウル、ダビデの聲をしりていひけるはわが子ダビデよ是は爾の聲なるかダビデいひけるは王わが主よ

二八 わが聲なり 一八 ダビデまたいひけるはわが主にゆゑに斯くその僕をおふや我なにをなせしや何の悪き事わが手

二九 にあるや 一九 王わが主よ請ふいま僕の言を聴きたまへ若しエホバ爾を我に敵せしめたまふならばねがはくはエホ

バ禮物をうけたまへされど若し人ならばねがはくは其人々エホバのまへのろはれよ其は彼等爾ゆきて他の神に

三〇 つかへよといひて今日我を追ひエホバの産業に連なることをえざらしむるが故なり 二〇 ねがはくは我血をしてエ

ホバのまへをはなれて地におちしむるなかれそは人の山にて鷓鴣をおふがごとくイスラエルの王一の蚤をたづね

にいでたればなり

三一 サウルいひけるは我罪ををかせりわが子ダビデよ歸れわが生命今日爾の目に寶と見なされたる故により我

我かさねて爾に害を加へざるべし嗚呼われ愚なることをなして甚だしく過てり

王よ槍を視よ請ふひとりの少者をしてわたりてこれを取しめよ

したがひて報いたまへ其はエホバ今日爾をわが手にわたしたまひしに我エホバの受膏者に敵してわが手をのぶ

ることをせざればなり 爾の生命を今日わがおもんぜしごとくねがはくはエホバわが生命をおもんじて諸の

艱難のうちより我をすくひいだしたまへ サウル、ダビデにいひけるはわが子ダビデよ爾はほむべきかな爾

大なる事を爲さん亦かならず勝をえんとしかしてダビデは其道にさりサウルはおのれの所にかへれり

第二十七章

ダビデ心の中にいひけるは是のごとくば我早晚サウルの手にほろびん速にペリシテ人の地にのるゝにまさることあらず然らばサウルかさねて我をイスラエルの四方の境にたづぬることをやめて

我かれの手をのがれんと

アキシにいたる

の妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりシアビガルとともにあり

にげしことサウルにきこえければサウルかさねてかれをたづねざりき

こゝにダビデ、アキシにいひけるは我もし爾のまへに恩を得たるならばねがはくは郷里にある邑のうち

て一のところを我にあたへて其處にすむことを得さしめよ僕なんぞ爾とともに王城にすむべけんやと

其日チクラグをかれにあたへたり是故にチクラグは今日にいたるまでユダの王に屬す

國にをりし日數は一年と四箇月なりき

イ詩七・八、一八二〇 二王前二一・一〇 五
口和二三・二八 ホ王前二五・四三 一
ハ王前二五・一三 へ書一五・三一、一九 ト王前二九・三

一書一三・二二 又出一七・二六 母前 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 二書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 三書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 四書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 五書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 六書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 七書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 八書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 九書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三
 十書一六・一〇 士一 一五・七・八 二一・二八 申一八・二〇、二一 一・二八 申三三

ハ ダビデ其從者と共にのぼりゲシユル人ゲゼリ人アマレク人を襲ふたり昔より是等はシユルにいたる地にす
 九 みてエジプトの地にまでおよべり ダビデ其地をうちて男をも女をも生し存さず羊と牛と駱駝と衣服をとりて
 八 還りてアキシに至る アキシいひけるは爾ら今日何地を襲ひしやダビデいひけるはユダの南とエラメル（ミナミ）の南と
 七 ケニ人の南ををかせりと ダビデ男も女も生存らしめずして一人をもガテにひきゆかさざりき其はダビデ恐くは
 六 彼らダビデかくなせりといひて我儕の事を告んといひたればなりダビデ、ペリシテ人の地にすめるあひだは其な
 五 すところ常にかくのごとくなりき アキシ、ダビデを信じていひけるは彼は其民イスラエルをして全くおのれ
 四 を悪ましむされば永くわが僕となるべし

第二章

一 其頃ペリシテ人イスラエルと戦はんとて軍のために軍勢を集めたればアキシ、ダビデにいひける
 二 は爾明かにこれをしれ爾と爾の從者我とともに出て軍にくはゝるべし ダビデ、アキシにいひ
 けるはされば爾僕（わが）のなさんところをしるべしとアキシ、ダビデにさらば我爾を永く我身をまもる者となさんと
 いへり

三 サムエルすでに死たればイスラエルみなこれをかなしみてこれをそのまちらマにはうむれりまたサウルは
 四 口寄者とト筮師を其地よりおひいだせり ペリシテ人あつまりきたりてシユネムに陣をとりければサウル、イ
 五 スラエルを悉くあつめてギルボアに陣をとれり サウル、ペリシテ人の軍を見しときおそれて其心大にふる
 六 へたり サウル、エホバに問ひけるにエホバ對たまはず夢に因てもウリムによりても預言者によりてもこたへ
 七 たまはず サウル僕等にいひけるは口寄の婦を求めよわれそのところにゆきてこれに尋ねんと僕等かれにいひ

けるは視よエンドルに口寄の婦あり

八 サウル形を變へて他の衣服を著二人の人をともなひてゆき彼等夜の間そのおんなのところに其婦の所にいたるサウルいひける

九 は請ふわがために口寄の術をおこなひてわが爾に言ふ人をわれに呼おこせ 婦かれにいひけるはなんぢサウル

のなしたる事すなはち如何にかれが口寄者と卜筮師を國より斷さりたるを知る爾なんぞ我を死しめんとてわが

一〇 生命を亡す謀計をなすや サウル、エホバを指てかれに誓ひいひけるはエホバは生く此事のためになんぢ罪に

二二 あふことあらじ 婦いひけるは誰を我なんぢに呼起すべきかサウルいふサムエルをよびおこせ 婦サムエル

を見て大なる聲にてさけびいだせりしかして婦サウルにいひけるは爾なにゆゑに我を欺きしや爾はすなはちサウ

三 王かれにいひけるは恐るゝなかれ爾なにを見しや婦サウルにいひけるは我神の地よりのぼるを見たり

四 サウルかれにいひけるは其形容は如何彼いひけるは一人の老翁のぼる其人明衣を衣たりサウル其人のサムエ

五 ルなるをしりて地にふして拜せり

一五 サムエル、サウルにいひけるは爾なんぞ我をよびおこして我をわづらはすやサウルとたへけるは我いたく

一六 悩むペリシテ人我にむかひて軍をおこし又神我をはなれて預言者によりても又夢によりてもふたゝび我にこたへ

一七 たまはずこのゆるに我なすべき事を爾にまなばんとて爾を呼り サムエルいひけるはエホバ爾をはなれて爾の

一八 敵となりたまふに爾なんぞ我にとふや エホバわれをもて語りたまひしことをみづから行ひてエホバ國を爾の

一八 手より割きはなち爾の隣人ダビデにあたへたまふ 爾エホバの言にしたがはず其烈しき怒をアマレクにもらさ

一九 ざりしによりてエホバ此事を今日爾になしたまふ エホバ、イスラエルをも爾とともにペリシテ人の手にわた

イ申一八・二一 代上 口母前二八・三
一〇・二三 賽八・八 出三二・二八 水離五・二二、二二、一 母前二八・六
一九 二母前一五・二七 王 三、一四・一四 子母前一五・二八
二〇・四二 代上

一〇・二三 耶四八

リ離一六・四 王上
又母前一五・九 王上
二〇・四二 代上

したまふべし明日爾と爾の子等我とともになるべしまたイスラエルの陣營をもエホバ、ペリシテ人の手にわたしたまはんと

- 二〇 サウル直ちに地に伸びたふれサムエルの言のために痛くおそれ又其力を失へり其はかれ其一日一夜物食ざりければなり
- 二一 かの婦サウルにいたり其痛く慄くを見てこれにいひけるは視よ仕女爾の言をきよわが生命を
- 二三 かけて爾が我にいひし言にしたがへり
- 二四 されば請ふ爾も仕女の言を聽て我をして一口のパンを爾のまへにそなへしめよしかして爾くらひて途に就く時に力を得よ
- 二五 されどサウル否みて我は食はじといひしを其僕および婦強ければ其言をきよいれて地より立あがり床のうへに坐せり
- 二六 婦の家に肥たる犢ありしかば急ぎて之を殺しまた粉をとり擗て酵いれぬパンを炊き
- 二七 サウルのまへと其僕等のまへに持ちきたりければ彼等くらひて立ちあがり其夜のうちにされり

第二十九章

- 一 爰にペリシテ人其軍をことごとくアベクにあつむイスラエルはエズレルにある泉水の傍に陣をとる
- 二 ペリシテ人の君等あるひは百人或は千人をひきゐて進みダビデと其從者はアキシとともに其後にすむ
- 三 ペリシテ人の諸伯いひけるは是等のヘブル人は何なるやアキシ、ペリシテ人の諸伯にいひけるは此はイスラエルの王サウルの僕ダビデにあらずやかれ此日ごろ此年ごろ我とともにをりしがその逃げおちし日より今日にいたるまで我かれの身に咎あるを見ずと
- 四 ペリシテ人の諸伯これを怒る即ちペリシテ人の諸伯彼にいひけるは此人をかへらしめて爾が之をおきし其所にふたよびいたらしめよ彼は我らとともに戦ひにくだるべからず然ば彼戦争においてわれらの敵とならざるべしかれ其主と和がんとせば何をもてすべきやこの人々の首級を

もてすべきにあらずや 是はかつて人々が舞蹈の中にて歌ひあひサウルは千をうちころしダビデは萬をうちころすといひたるダビデにあらずや

六 アキシ、ダビデをよびてこれにいひけるはエホバは生くまことになんぢは正し爾の我とともに陣營に出入

するはわが目には善と見ゆ其は爾が我に來りし日より今日にいたるまで我爾の身に惡き事あるを見ざればなり

七 然ど諸伯の目には爾よからず されば今かへりて安かにゆきペリシテ人の諸伯の目に惡く見ゆることをなすな

八 かれ ダビデ、アキシにいひけるは我何をなせしやわが爾のまへに出し日より今日までに爾何を僕の身に見

たればか我ゆきてわが主なるわうの敵とたゝかふことをえざると アキシこたへてダビデにいひけるは我爾の

わが目には神の使のごとく善きをしるされどペリシテ人の諸伯かれは我らとともに戦ひにのぼるべからずと

九 いへり されば爾および爾の主の僕の爾とともにきたれる者明朝夙く起よ爾ら朝はやくおきて夜のあくるに

二 及ばざさるべし 是をもてダビデと其從者ペリシテ人の地にかへらんと朝はやく起てされりしかしてペリシテ

人はエズレルにのぼれり

第三〇章

一 ダビデと其從者第三日にチクラグにいたるにアマレク人すでに南の地とチクラグを侵したりかれ

らチクラグを撃ち火をもて之を燬き 其中に居りし婦女を擄にし老たるをも若きをも一人も殺さ

ずして之をひきて其途におもむけり 三 ダビデと其從者邑にいたりて視に邑は火に燬けその妻と男子女子は擄に

せられたり 四 ダビデおよびこれとともにある民聲をあげて哭き終に哭く力もなきにいたれり 五 ダビデのふた

りの妻すなはちエズレル人アヒノアムとカルメル人ナバルの妻なりシアビガルも虜にせられたり 六 時にダビデ

イ母前二八・七、二一

一九・二七

〇、一九・二七

ト母前一五・七、二七

三 母後三・二

ハ母前二九・三

ハ母前二九・三

ホ母前二九・四

八

チ母前二五・四、四

ロ母後三・二五 王下

ニ母後一四・一七、二

ハ母後四・四

チ母前二五・四、四

リ出二七・四　　八 王下四・二七　　一七、一八　　カ母前三〇・二一　　マ母前三〇・一六 母　　・二六 番二・五　　ソ前五・三
又士二八・二五 母前　　ル詩四二・五、五六・　　ヲ母前二三・六、九　　ヨ士二五・一九 母前　　後八・一八 王上一　　レ卷一四・二三、一五
一・一〇 母後一七　　三四、一一 哈三・　　ワ母前二三・二、四　　一四・二七　　三八、四四 結二五　　・二三

大に心を苦めたり其は民おのおの其男子女子のために氣をいらだてダビデを石にて撃んといひたればなりされど

ダビデ其神エホバによりておのれをばげませり

七　　ダビデ、アヒメレクの子祭司アビヤタルにいひけるは請ふエポデを我にもちきたれとアビヤタル、エポデ

八　　をダビデにもちきたる　　ダビデ、エホバに問ていひけるは我此軍の後を追ふべきや我これに追つくことをえん

九　　かとエホバかれにこたへたまはく追ふべし爾かならず追つきてたしかに取もどすことをえん　　ダビデおよび

一〇　　これとともなる六百人の者ゆきてベソル川にいたれり後にのこれる者はこゝにとゞまる　　即ちダビデ四百人を

ひきゐて追ゆきしが憊れてベソル川をわたることあたはざる者二百人はとゞまれり

二　　衆人野にて一人のエジプト人を見これダビデにひききたりてこれに食物をあたへければ食へりまたこれ

三　　に水をのませたり　　すなはち一段の乾無花果と二球の乾葡萄をこれにあたへたり彼くらひて其氣ふたゞび爽か

三　　になれりかれは三日三夜物をもくはず水をものまざりしなり　　ダビデかれにいひけるは爾は誰の人なる爾は

いづくの者なるやかれいひけるは我はエジプトの少者にて一人のアマレク人の僕なり三日まへに我疾にかゝりし

四　　ゆるにわが主人我をすてたり　　我らケレテ人の南とユダの地とカレブの南ををかしまた火をもてチクラグを

五　　やけり　　ダビデかれにいひけるは爾我を此軍にみちびきくだるやかれいひけるは爾我をころさずまた我をわが

主人の手にわたさざるを神をさして我に誓へ我爾を此軍にみちびきくだらん

六　　かれダビデをみちびきくだりしが視よ彼等はペリシテ人の地とユダの地より奪ひたる諸の大なる掠取物

七　　のためによろこびて飲食し踊りつゝ地にあまねく散ひろがりて居る　　ダビデ暮あひより次日の晩にいたるまで

一八 かれらを撃しかば駱駝にのりて逃げたる四百人の少者の外は一人ものがれたるもの无りき 一八 ダビデはすべて
 一九 アマレク人の奪ひたる物を取りもどせり其二人の妻もダビデとりもどせり 一九 小きも大なるも男子も女子も掠取
 二〇 物もすべてアマレク人の奪さりし物は一も失はずダビデことごとく取かへせり 二〇 ダビデまた凡の羊と牛を
 とれり人々この家畜をそのまへに驅きたり是はダビデの掠取物なりといへり
 二一 かくてダビデかの憊れてダビデにしたがひ得ずしてベソル川のほとりに止まりし二百人の者のところにい
 たるに彼らダビデをいでむかへまたダビデともなる民をいでむかふダビデかの民にちかづきてその安否をたづ
 ぬ 二二 ダビデとともにゆきし人々の中の悪く邪なる者みなこたへていひけるは彼等は我らとともにゆかさりけれ
 ば我らこれに取りもどしたる掠取物をわけあたふべからず唯おのおのにその妻子をあたへてこれをみちびきさら
 しめん 二三 ダビデ言けるはわが兄弟よエホバ我らをまもり我らにせめきたりし軍を我らの手にわたしたまひたれ
 ば爾らエホバのわれらにたまひし物をしかするは宜からず 二四 誰か爾らにかゝることをゆるさんや戦ひにくだり
 二五 し者の取る分のごとく輜重のかたはらに止まりし者の取る分もまた然あるべし共にひとしく取るべし 二五 この日
 よりのちダビデこれをイスラエルの法となし例となせり其事今日にいたる
 二六 ダビデ、チクラグにいたりて其掠取物をユダの長老なる其朋友にわかちおくりて曰しめけるは是はエホバ
 二七 の敵よりとりて爾らにおくる饋物なり 二七 ベテルにをるもの南のラモテにをるものヤツテルにをる者 二八 アロエ
 二九 ルにをる者シフモテにをるものエシテモにをるもの 二九 ラカルにをるものエラメル人の邑にをるものケ二人の邑
 三〇 にをるもの 三〇 ホルマにをるものコラシヤンにをるものアタクにをるもの 三一 ヘブロンにをるものおよびすべて
 三二

イ母前三〇・八 ニ申一三・一三 士 二二・八 ト書一九・八
 口母前三〇・一〇 一九・二二 へ創三三・一一 母前 チ書一五・四八
 八士一八・二五 ホ民三一・二七 書 二五・二七 里書一三・一六 又書一五・五〇
ル母前二七・一〇 ワ士一・二七 カ書一四・一三 母後 三・一
 日代上二〇・一一三

夕母前二八・四
 レ母前一四・四九 代
 上八・三三
 ソ母後一・六
 ツ士九・五四
 夕母前一四・六、一七
 ナ母後一・二四
 ラ母後一・二〇
 ・二六
 ナ母後一・二四
 ・二七
 ム母後一・二〇
 ウ母前二一・九
 井士八・二三
 ノ母後二一・二二
 オ書一七・一一 士一
 ・二七
 夕母前一一・三、九、
 夕母前一一・二一
 夕母後二・四一七
 母後二・四一七
 代下一六・一四 耶
 ・二二、二三、二四
 三四・五、六、一〇
 フ制五〇・一〇

ダビデが其從者ととも毎にゆきし所にこれをわかちおくれり

第三章

- 一 ペリシテ人イスラエルと戦ふイスラエルの人々ペリシテ人のまへより逃げ負傷者ギルボア山に斃れたり
- 二 マルキシユアを殺したり
- 三 戦はげしくサウルにせまりて射手の者サウルを射とめければ彼痛く射手の者のために苦しめり
- 四 サウル武器を執る者にいひけるは爾の劍を抜き其をもて我を刺とほせ恐らくは是等の割禮なき者きたりて我を刺し我をはづかしめんと然ども武器をとるもの痛くおそれ肯ぜざればサウル劍をとりて其上に伏したり
- 五 武器を執るものサウルの死たるを見ておのれも劍の上にあふしてかれとともに死り
- 六 かくサウルと其三人の子およびサウルの武器をとるもの並に其從者みな此日俱に死り
- 七 イスラエルの人々の谷の對向にをるもの及びヨルダンの對面にをるものイスラエルの人々の逃るを見サウルと其子等の死るをみて諸邑を棄て逃げればペリシテ人きたりて其中にをる
- 八 明日ペリシテ人戰没せる者を劍んとてきたりサウルと其三人の子のギルボア山にたふれをるを見たり
- 九 彼等すなはちサウルの首を斬り其鎧甲をはぎとりペリシテ人の地の四方につかはして此好報を其偶像の家および民の中につげしむ
- 一〇 またかれら其鎧甲をアシタロテの家におき其體をベテシヤンの城垣に釘けたり
- 一一 ヤベシギレアデの人々ペリシテ人のサウルになしたる事を聞きしかば
- 一二 勇士みなおこり終夜ゆきてサウルの體と其子等の體をベテシヤンの城垣よりとり
- 一三 おろしヤベシにいたりて之を其處に焚き
- 一四 其骨をとりてヤベシの柳樹の下にはうむり七日のあひだ斷食せり

サムエル前書 をはり